

HIROSHIMA UNIVERSITY BHS NEWS

Hiroshima University Graduate School of Biomedical & Health Sciences

目次

Greetings ご挨拶	2
My Motto 座右の銘	6
Research Frontline 研究最前線	7
Prize Winner 各賞受賞者紹介	9
Prize Winner 各賞受賞者リスト	10
Air Mail 広大から海外へ留学している若手の日記	12
Meeting Report 院生の国際学会参加報告	13
News Digest 最近の新聞記事から	32
Meeting Record 学会等開催記録	37
人事異動	42
Congratulations 大学院修了者一覧	46
平成26年度受託研究受入・民間等との共同研究実績状況	53
平成26年度奨学寄附金受入状況	53
寄贈図書一覧	53
編集後記	54



目次

目次	
Greetings	ご挨拶 …………… 安井 弥 … 2
	「留学生数の飛躍的増加に向けて—トルコは新しいターゲット—」
Greetings	ご挨拶 …………… 越智 光夫 … 3
	「100年後も世界で光り輝く大学へ」
Greetings	ご挨拶 …………… 柴 秀樹 … 4
	「歯髄生物学研究室教授就任のご挨拶」
Greetings	ご挨拶 …………… 松尾 裕彰 … 5
	「就任のご挨拶」
My Motto	座右の銘 …………… 平川 勝洋 … 6
	「“自然体” “運・鈍・根”」
Research Frontline	研究最前線 …………… 一戸 辰夫 … 7
	「次世代シーケンサーを用いた網羅的な免疫系解析技術の開発」
Research Frontline	研究最前線 …………… 小林 正夫 … 8
	「エクソーム配列解析を用いた小児難治性疾患の病因究明」
Prize Winner	各賞受賞者紹介 …………… 越智 光夫 … 9
	「第12回産学官連携功労者表彰〜つなげるイノベーション大賞〜厚生労働大臣賞を受賞して」
Prize Winner	各賞受賞者リスト …………… 10
Air Mail	広大から海外へ留学している若手の日記 …………… 上神慎之介 … 12
	「米国ミネソタ大学留学便り」
Meeting Report	院生の国際学会参加報告 …………… 13
News Digest	最近の新聞記事から …………… 32
Meeting Record	学会等開催記録 …………… 37
人事異動	…………… 42
Congratulations	大学院修了者一覧 …………… 46
平成26年度受託研究受入・民間等との共同研究実績状況	…………… 53
平成26年度奨学寄附金受入状況	…………… 53
寄贈図書一覧	…………… 53
編集後記	吉川 峰加 …………… 54
表紙写真説明	…………… 54



留学生数の飛躍的増加に向けて—トルコは新しいターゲット—

安井 弥 医歯薬保健学研究院長・研究科長

越智光夫先生が第12代広島大学長に就任されました。国際力、研究力、教育力の強化を通して、100年後にも世界で光り輝く広島大学に向けてリーダーシップを発揮されることと確信しています。

スーパーグローバル大学創生支援事業の目標達成に向けて、広島大学の中期計画に、シラバスの英語化、教員の国際公募、学生の海外派遣数、留学生の受入数等について具体的な数値が書き加えられました。留学生数の飛躍的増加に向けて研究科では昨年度、海外での現地説明会への積極的参加、ホーチミン市医科薬科大学（ベトナム）、アイルラング大学（インドネシア）との大学院サンドイッチプログラムの検討、ミャンマーの2大学の若手教員招聘などを行いました。また、ビントゥアン医科大学（ベトナム）、フォーサイス研究所（米国）との協定締結に向けた協議、MDアンダーソンがんセンター（米国）のGAP（Global Academic Programs）採用に向けた協議を開始しています。

1890年のエルトゥール号遭難事件以来、親日として知られているトルコですが留学生は全学でわずか1名です。そこで、留学生獲得の新たなターゲットと考え、首都アンカラにあるバシケント（Başkent）大学と大学間協定を締結し本年2月に先方を訪問しました。また、同市内のハジェテペ（Hacettepe）大学とアンカラ（Ankara）大学も訪ね、交流の可能性を協議しました。過激派組織ISによる日本人ジャーナリスト殺害事件から間もない時点であり、外務省の渡航情報に注意しましたが、特に危険を感じることはありませんでした。ハジェテペ大学の元教授で当教室で1993年に学位を取得したAyse Ayhan先生が大学間協定締結に向けた交渉、3大学訪問の日程調整、現地の同行と大きな力になってくれました。バシケント大学は11学部7研究科を擁するトルコ有数の総合大学であり、全国10個所に付属病院があります。広大な本部キャンパスは郊外に、医学部、歯学部、主病院は市街中心部にあり、広島大学と似ています。このメディカルキャンパスで100名以上集まった学部生・研修医を前に医歯薬保健学研究科の紹介を行いました。質疑応答後も会場に残った約20名から個別質問を受け、日本そして広島大学への注目度の高さを改めて知りました。この内の1名は早速この夏に医学部に研修に来る予定で調整しています。その後、救急外来、移植患者専用ICU、NICU、病棟、IVR等を視察しましたが、十分に高いレベルであると認識できました。今年度は、広島大学医学部生の臨床実習を受入れていただくよう調整中です。バシケント大学グループは独自のテレビチャンネルを持っており、私たちの訪問のすべての行程でカメラを回し、ニュースとして15分間にわたって放映されました。広報戦略は大切です。

文部科学省は、2016年度から国立大学を「地域活性化の中核となる大学」、「特定分野で世界的な教育研究を目指す大学」、「世界最高水準の教育研究を目指す大学」の3つに分け、ひいては最後のカテゴリーの一部が特定研究大学（仮称）として特例措置を講じて支援される予定です。広島大学の向かうべき方向性は明らかです。



100年後も世界で光り輝く大学へ

越智 光夫 学長

4月1日より浅原利正前学長の後任として第12代広島大学長に就任いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。

ご承知のように、広島大学は平成25年度、「研究大学強化促進事業」支援対象機関に選定され、26年度には「スーパーグローバル大学創成支援」において「タイプA（トップ型）」の13大学の一つに、中国・四国地方で唯一採択されました。

広島大学に所属する一員として大変な名誉であります。しかし、別の見方をすれば、国と国民に対して大きな役割と責務を引き受けたともいえるわけです。「10年後に世界トップ100に入る」という所期の目的を果たすためには、全学的な研究力の向上が求められることは言うまでもありません。

一方、国立大学の運営費交付金について文部科学省は、28年度から配分方法を見直す方針を示しました。「人材育成や地域課題を解決する取り組みなどを通じて地域に貢献する大学」「強み・特色のある分野で世界ないし全国的な教育研究を推進する大学」「海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する大学」の3つの重点支援の枠組みを新設。各大学はいずれか1つの枠組みを選んで機能強化に取り組み、その評価に応じて運営費交付金が配分される仕組みです。成果主義の導入であり、大学間競争がいつそう激しくなることは間違いありません。

こうした中、科学研究費をはじめ競争的資金の重要性はますます高まっています。大型資金だけでなく、申請できる全ての競争的資金の獲得を戦略的に実施するために大学経営企画室で情報収集と周知、申請に有利な条件の整備等を行い、申請書の企画段階からURAの参加等による支援体制の整備を進めてまいります。

霞キャンパスから離れますので、教授として考えていたことを少し述べさせていただきます。島根医科大学を含めると約20年間の教授在任期間、心掛けてきたことが2つあります。1つは「できるだけ公平であらう」。努力すれば誰にも平等にチャンスが訪れ、自由に学問を伸ばして世界に羽ばたいていける教室に、と努めてまいりました。どのくらい実現できたか分かりませんが、多くの先生方がそれぞれの立場で奮闘されている様子を拝見できて、これほど嬉しいことはありません。

もう1つはアイデアです。ホンダを創業した本田宗一郎さんは「資本がないから事業が思わしくないという声をよく聞くが、それは資本がないからではなくアイデアがないからだ」という言葉を残しています。以前も書かせていただきましたが、「アイデアはそれを一心に求めさえすれば必ず生まれる」というチャップリンの名言にも通じます。アイデアというのは考え続けなければ生まれてきません。私の場合、「自分の得意なことは考え続けられることだ」と信じて、やってきました。海外で100回以上講演の機会を頂きましたが、英語会話は今でも苦手ですし、講演の際に気の利いたことも言えません。自分が持っている得意な能力を限界まで総動員する以外にはないのだと思ってきました。

これからの4年間、広島大学で学生が「学べてよかった」、教職員が「働けてよかった」といえるような環境づくりを私の能力を総動員し、滅私奉公の精神で行います。100年後も世界で光り輝く大学の一つであるよう、誠心誠意取り組んでまいります。ご支援いただきますよう、あらためてお願い申し上げます。



歯髄生物学研究室教授就任のご挨拶

柴 秀樹 医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 歯学分野 歯髄生物学 教授

この度、広島大学大学院医歯薬保健学研究院統合健康科学部門歯髄生物学研究室（旧：健康増進歯学研究室）の教授を拜命し、平成27年1月1日付で就任いたしました。紙面をお借りして皆様にご挨拶を申し上げます。

私は、昭和39年、広島市中区で生まれました。通学（通園）した学校の所在地については、幼稚園は南区、小学校、中学校、高等学校と広島大学歯学部歯学進学課程は中区、そして歯学部歯学専門課程と歯学研究科は南区でした。勤務先は、留学（ケンタッキー州ルイビル大学、2002年11月から2004年11月まで）を除いては、広島大学歯学部（歯周病態学研究室）です。狭い生活域と思われるかもしれませんが、私は日本史、地理およびドライブが好きなので、日本全国47都道府県、津々浦々の景勝地や歴史的建造物・史跡を訪れています。私は広島市民であることを自負しています。

実は、私は5度目の挑戦で教授に就任することができました。最初に応募した時は39歳でした。結果的に、愛する母校で教授として教育・研究・臨床に引き続き精励できることになりました。このことは、誠に光栄であるとともに、責任の重さを感じています。

研究室名中の歯髄は歯の中にある（象牙質に囲まれた）軟組織です。歯髄の役割には、知覚や外来刺激からの防御などがあります。私は、歯髄組織や根尖部歯周組織（歯根の先端周囲の歯周組織（歯槽骨））などの炎症性疾患の治療に関する学問、すなわち、歯内療法学の教育、研究、臨床を主に担当させていただきます。

教育においては、将来の歯科医療・歯学を自ら切り拓いていく能力、高度な専門性を有し、国際的に活躍できる歯科医師を輩出し、研究においては、生物学的な概念に基づく高度な歯内療法を実現させるため、歯学領域の評価、学際的评价および国際的評価を受ける研究を進めていきたいと考えています。さらに、臨床においては、難症例や希少症例に積極的に対応し地域で基幹的な役割を担うとともに、歯科医療の高度化、すなわち、細胞・タンパク質・遺伝子レベルでの生物学的概念に基づいた診断・治療・予防（例えば、生物学的活性因子や細胞を用いた歯髄・象牙質複合体および根尖部歯周組織の再生療法、個々の患者の病態に基づいた診断・治療というオーダーメイド医療）を実用化して広島大学病院を発信地とした新しい高度な歯科医療の展開に積極的な役割を担うことが目標です。これらの実現によって、歯髄生物学研究室は、広島大学が世界水準の優れた教育研究の拠点として世界をリードし、学生と教職員が心から愛し、さらに、他大学から羨望の的とされる総合研究大学であるために、微力ながら貢献できると考えています。今後とも皆様の温かいご支援とご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶



就任のご挨拶

松尾 裕彰 広島大学病院 薬剤部 教授

このたび、木平健治教授の後任として、広島大学病院薬剤部長を拝命し、平成27年4月1日付けで着任いたしました。紙面をお借りして皆様にご挨拶申し上げます。私は、広島大学医学部総合薬学科を平成5年に卒業後、同大学院へ進学し抗生物質生産菌の自己耐性メカニズムに関する研究を行い、学位を取得しました。大学院修了後、製薬メーカーの研究者として機能性素材や医薬品の開発に従事しました。平成14年に島根大学医学部皮膚科学教室の助手として採用されてからは、皮膚アレルギー、特に食物アレルギーに関する基礎および臨床研究を進めて参りました。薬学部が設立された平成18年に広島大学に採用され、平成23年から薬学部教授として薬学教育と研究に取り組んで参りました。これまでの間、ご指導、ご支援を賜りました諸先生方に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

超高齢化社会が到来し、質の高い医療を効率的に提供するために、病棟薬剤業務、癌患者への薬物治療指導管理、在宅医療への参画など、薬剤師の果たすべき役割は増大しています。これからの病院薬剤師は、薬に関わる全ての業務を高い専門性と責任を持って主体的に実施しなければなりません。また、他の医療スタッフとお互いの業務を連携・補完し合い、患者の状況に応じた医療を適切に提供するチーム医療の実施、さらには地域医療への積極的な参加も求められています。大学病院薬剤部の重要な責務は、「臨床」、「研究」、「教育」であります。その中でも、患者の治療に直接影響する臨床業務は肝要であり、確実に行わなければなりません。

私は、変化し続ける医療環境と患者ニーズに柔軟に対応し、業務を実践できる薬剤部体制を築き、他の医療スタッフの負担軽減と医療の有効性・安全性の向上を目指した臨床業務を行い、患者本位の治療に尽力したいと考えています。そのために、これまで培われた広島大学病院薬剤部の伝統と患者との信頼関係を受け継ぎ、企業、医学部、薬学部における経験を活かして、さらに発展した薬剤業務の確立に努めます。また、学生や薬剤師教育、ならびに、研究も大学病院の発展には欠かせません。霞キャンパスの先生方と協力しながら、教育活動を行い、高いモチベーションとリサーチマインドを有した医療人の育成に、一層努力する所存でございます。研究においては、これまで行ってきた薬剤の服用や運動負荷が食物アレルギーの発症に及ぼす影響の解析に加えて、臨床の先生方の御助言を頂きながら臨床薬学に関する新たなテーマを立ち上げて進めていきたいと考えています。皆様には、今後とも変わらぬご指導とご鞭撻をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

My Motto

座右の銘

“自然体” “運・鈍・根”

平川 勝洋

病院長
医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 医学分野
耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学 教授

これまでの人生で、特に“座右の銘”として常に頭の中で反芻しながら唱えてきたものをすぐに思いつかない。しかし、生き方として心がけてきた、あるいは身についてきたものは、標題の“自然体”と“運・鈍・根”である。

過去の重鎮の先生方の研究者としてのMottoは立派なものばかりであるが、振り返って自分のMottoを考えてみてもなかなか思い浮かぶものがなく、原稿依頼を受けたものの、何をどのように書けばよいのか、悩むばかりで締切日が近づいてきた。

以前ある雑誌から、やはり同様のテーマで依頼を受け、駄文を載せていただいたのだが、その題は「外見も中身から」であった。“人間、中身で勝負”が当たり前の考え方であるが、その中身を作るため外見から入ることの重要性を大先輩の先生から御教授いただいた。スポーツの世界でも似たものがある。まずは、外見、フォームの模倣から自己流（自分の体格や、運動能力にあわせ）にアレンジして、ライバルや先達を越える工夫をしていくことが上達の鉄則である。もちろん、頭で考えたことが体現できるか、対応できる身体能力の高さも重要な要素であるが、その工夫をする才能と努力する能力を有するかが、より大きな成果につながるために必須の要素である。ということで、自分が心がけてきたのが、誰からも、常に平静にしていると見られるように＝自然体である。

自然体であることは、“無理をしない”＝“進歩がない”ということにもなりかねない。自分自身を客観的に正確に分析・評価できているかが肝要で、今までの教訓では、あたふたしたり、能力を超えた活動をしようとしたり、謙虚さをなくすとろくな結果は生まれてこなかったように思う。

「運は鈍でなければつかめない。利口ぶってちょこまかすると運は逃げてしまう。鈍を守るには根がなければならぬ」。これは幕末から明治時代を生きた古河市兵衛が残した「運・鈍・根の教え」である。私が医師になり入局した時のボスであった黒住静之教授（故人）が、後輩の先生に事あるごとにお話しされていた言葉であると聞いている。古河市兵衛は、古河機械金属を裸一貫から創業し、日本の「鉾山王」と称された人物である。人間にとって最も重要なのは運としても、大きな事をやり遂げるには愚鈍さと根気が必要であるということを説いている。めまぐるしく変化する現代社会において、古臭い考えのように思えるが、“自然体”で“運・鈍・根の教え”に従い、粛々と事に臨むことが、最も望ましい結果をもたらしてくれるように思っている。



次世代シーケンサーを用いた網羅的な免疫系解析技術の開発

一戸 辰夫 原爆放射線医学研究所 放射線災害医療研究センター
血液・腫瘍内科研究分野 教授

脊椎動物の免疫系の中心メンバーであるB細胞とT細胞は、それぞれ免疫グロブリン、T細胞受容体として知られる抗原特異的な受容体を発現しています。これらの受容体は、いわばB細胞やT細胞の「顔」にあたるもので、多種多様の外来抗原に対応するため、遺伝子再構成という仕組み（受容体の構造を決定する遺伝子配列の後天的な組み替え）によって著しい多様性を獲得しています（ヒトでは少なくとも 10^{10} 個以上と推定されています）。各個人がどのような構造の抗原特異的な受容体を持っているのかをあらかじめ知ることができれば、感染症や悪性腫瘍に対する個体レベルでの免疫応答をより深く理解することが可能となります。このような抗原特異的な受容体の詳細な情報は、感染症や悪性腫瘍の予防や治療に役立てることができると考えられますが、従来、「星の数ほどある」抗原特異的な受容体のレパートリーをひとつひとつ同定することは不可能でした。そこで、筆者らの研究グループでは、近年発達した著しい高速シーケンサーを利用して、免疫グロブリンやT細胞受容体の多様性を網羅的かつ定量的に解析可能とする技術の開発を進めています。

これまでに開発した方法では、①得られた検体から免疫グロブリンやT細胞受容体の構造を決定するRNAを抽出、②特定の共通遺伝子配列を導入した後に、同一のプライマーを用いてPCR法で増幅、③得られたPCR産物を精製し、シーケンシング用のライブラリを作成、④それらの遺伝子配列を次世代シーケンサーで一気に分析します。この方法を用いれば、理論的には、検体中に含まれている免疫グロブリン遺伝子やT細胞受容体遺伝子の配列を全て決定することが可能です。実際、健康人の血液に存在するT細胞のレパートリーの網羅的な解析を行い、サイトメガロウイルスpp65抗原に反応するT細胞受容体の候補を約100種類同定するとともに、その中から最もウイルスに対する反応性が強い受容体の構造を決定することができました。

今後は、この新しい網羅的な免疫系解析技術をできるだけ早く臨床現場に導入することによって、多くの免疫造血器疾患の病態を明らかにするとともに、新たな治療法開発の端緒を切り開いていきたいと考えています。具体的には、骨髄移植などの造血幹細胞移植後のさまざまな免疫学的合併症の診断法と治療法を開発することを目指して、移植を受けた患者さんの体の中におけるT細胞受容体の多様性とその機能を解析する研究を開始しています。また、リンパ性白血病や悪性リンパ腫など、B細胞やT細胞の増殖を伴う造血器腫瘍を対象に、患者さんの体内に残存するきわめて微量の腫瘍細胞を検出して、治療方針の決定に役立てるための研究の準備を進めています。さらに将来には、免疫系の個体発生を明らかにすることができれば・・・と妄想のような夢を抱いており、全個体レベルで免疫系構成細胞を同定することが実現可能な小型生物として研究室に熱帯魚（ゼブラフィッシュ）を飼い始めました。このような研究に興味のある方は、いつでも霞キャンパスの原医研1階にあるこのミニ水族館を覗きにきて下さい。

エクソーム配列解析を用いた小児難治性疾患の病因究明

小林 正夫 医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 医学分野 小児科学 教授

ヒトゲノムは約31億対の塩基配列を有しており、2003年にヒトゲノム配列の解読が終了し、現在ヒトは約22,000個の遺伝子を有すると考えられています。ヒトゲノムのなかで、エクソン領域が占める割合は1~1.5%と少ないにも関わらず、多くの遺伝性疾患はエクソン領域内の塩基置換（変異）による遺伝子の機能障害により発症することが知られています。近年の次世代シーケンサーを用いたエクソーム配列解析から、エクソン領域のみを濃縮したのち約20,000遺伝子の80%以上のエクソン領域を一度に網羅的に解析することが可能となりました。

エクソーム配列解析により塩基配列決定能力が飛躍的に伸びた結果、多くの分野において病因解明にブレークスルーがもたらされています。特に、小児科領域で扱われる遺伝性疾患研究では、網羅的な遺伝子解析により数多くの疾患責任遺伝子が同定され、多くの先天性疾患が遺伝的背景に基づいて発症することが明らかとなってきました。また癌ゲノム研究では、遺伝性乳がんのような胚細胞変異による遺伝性の癌もありますが、ほとんどの癌が体細胞変異の蓄積により発症する事が明らかとなり、その発症メカニズムも徐々に解明されつつあります。さらに、薬物代謝酵素遺伝子配列の解析によるテーラーメイド医療の可能性など、次世代シーケンサーを用いたエクソーム解析は、多くの分野において新たな知見を生みだしています。

小児科学研究室では、小児造血器腫瘍、原発性免疫不全症を代表とする小児難治性疾患の病因・病態解析を行い、最終的に難治性疾患の治療に貢献することを目標として日々研究を行っています。特に近年は、エクソーム配列解析により患者の責任遺伝子を同定し、細胞株を用いた一過性強制発現実験、患者由来iPS細胞を用いた実験から、同定した遺伝子異常の機能解析を行うことで病態を明らかにするという手法で研究を行ってきています。

原発性免疫不全症の原因遺伝子の同定と病態解析

1. STAT1異常症の同定と解析

a) 慢性皮膚粘膜カンジダ症（CMCD）の責任遺伝子の同定と迅速診断法の確立

CMCDは、皮膚、爪、口腔粘膜、外陰部などの粘膜病変を中心に、慢性、反復性にカンジダ感染症を繰り返す原発性免疫不全症です。我々の研究室は、海外の研究施設との共同研究で、CMCD患者において網羅的なエクソーム配列解析を行い、シグナル伝達兼転写活性化因子であるSTAT1の機能獲得性変異（GOF変異）を同定しました（J Exp Med 208: 1635-48, 2011）。その後、約半数にも及ぶCMCD患者がSTAT1 GOF変異を有することが判明したため、フローサイトメトリーを用いたSTAT1異常症の迅速診断法を開発し、本邦におけるCMCD患者の診断に役立てています（J Leukoc Biol 95: 667-78, 2014）。

b) STAT1の機能喪失性変異（LOF変異）による免疫不全症

一方、STAT1 LOF変異はメンデル遺伝型マイコバクテリア易感染症（MSMD）を引き起こします。MSMDは BCG、非結核性抗酸菌、サルモネラなどの細胞内寄生菌に対して選択的に易感染性を示す食細胞異常による原発性免疫不全症です。STAT1 LOF変異によるMSMD症例は非常に稀で、過去に世界で4家系が報告されていたのみでした。我々はSTAT1 LOF変異によりMSMDを呈した2家系を同定し、機能解析を報告しました（Hum Mut 33: 1377-87, 2012）。その後の検討で、IFN- γ R1, IFN- γ R2, STAT1異常に起因したMSMD患者では、多発性骨髄炎の発症頻度が高いことを報告しています（Haematologica 98: 1641-9, 2013）。最近の研究で、STAT1のcoiled-coil domain, DNA-binding domainにアラニンスキャニング変異導入法により変異体を作製し、網羅的な機能解析を行うことで変異ライブラリーを作成することに成功しました。この変異ライブラリーにより、患者で同定したSTAT1変異の機能障害を高精度に予測できることを明らかとしています（論文作成中）。

2. Activated PI3K δ syndrome（APDS）の遺伝子解析と迅速診断法の確立

APDSは、反復性気道感染、リンパ節過形成、抗体産生不全（IgM上昇、IgG₂減少）、EBV・CMVに対する易感染性を呈する原発性免疫不全症です。近年、PI3キナーゼに属する触媒サブユニットであるp110 δ 、p85 α の異常でAPDSが発症することが明らかとなりました。我々は、抗体産生不全症の患者を対象にエクソーム配列解析を行い、p85 α 異常によるAPDS本邦初症例を同定しました。さらに、フローサイトメトリーを用いたAKTのリン酸化状態の解析により、APDS患者の迅速診断が可能であることを明らかとしています（論文作成中）。

小児白血病における遺伝学的背景の解明

21番トリソミーのダウン症新生児の5~10%は、一過性異常骨髄増殖症（TAM）を発症しますが、その多くは自然軽快します。しかし、TAM寛解例の20~30%は、生後3年以内に急性巨核芽球性白血病（DS-AMKL）を発症します。TAM, DS-AMKL症例でGATA1遺伝子変異が同定されますが、その分子メカニズムは不明でした。我々は国内多施設共同研究で、TAM, DS-AMKL症例を対象にエクソーム配列解析を行い、GATA1遺伝子異常によりTAMが発症すること、TAM寛解例ではGATA1遺伝子異常を有する細胞群に、コピー数複合体などの遺伝子変異が加わることでDS-AMKLへ進展することを報告しました（Nat Genet 45: 1293-9, 2013）。

各賞受賞者紹介



第12回産学官連携功労者表彰～つなげるイノベーション大賞～ 厚生労働大臣賞を受賞して 越智 光夫 学長 医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 医学分野 整形外科学 教授

このたび、「自家培養軟骨ジャック[®]の開発と製品化」で第12回産学官連携功労者表彰～つなげるイノベーション大賞～厚生労働大臣賞を受賞致しましたので、ご報告申し上げます。

自家培養軟骨ジャック[®]とは、関節鏡手術でわずかな量の関節軟骨を採取し、コラゲナーゼ処理によって取り出した軟骨細胞をアテロコラーゲンゲル内で培養することで、体外で形成する軟骨様組織のことで、膝の関節軟骨の一部が欠損している患者さんへの移植に使用する再生医療製品です。私は島根医科大学（現島根大学）の教授であった時期にこの技術を開発し、1996年から関節軟骨欠損に対する自家培養軟骨移植の臨床研究を開始致しました。さらにこの治療の普及を目指して1999年に（株）ジャパン・ティッシュ・エンジニアリングに技術移転を行い、多施設共同治験を経て2013年に保険収載され、一般保険診療における実用化に成功致しました。この自家培養軟骨ジャック[®]は、我が国で2番目に保険収載された細胞加工製品ですが、最初に保険収載された自家培養表皮ジェイス[®]はアメリカで開発された技術を日本で製品化したものであることから、自家培養軟骨ジャック[®]は日本で開発され実用化された最初の細胞加工製品であり、現時点で我が国唯一の製品です。今回の受賞でも「日本発の再生医療技術が薬事承認・保険収載された初の事例」ということで、（株）ジャパン・ティッシュ・エンジニアリングの研究開発部長である菅原桂様と共に表彰していただきました。本技術による治療には施設認定が必要ですが、2015年3月現在で認定施設は134施設に到達し、北海道から沖縄まで日本全国各地でも治療が受けられる体制が整いつつあります。

しかし、自家培養軟骨移植の実用化までの道のりは非常に険しいものであり、臨床研究開始から保険収載まで約17年を要しています。日本の再生医療に関する研究は、iPS細胞に代表されるように世界トップレベルといっても過言ではありませんが、その実用化となると世界的な開発競争において後塵を拝することが危惧されます。日本の医療が今後も世界トップレベルであり続けるためには、こうした日本発の新しい医療技術を実用化するための環境整備が欠かせません。2014年11月に再生医療に関して、再生医療等の安全性の確保等に関する法律の制定や薬事法の改正が行われ、開発から実用化までの道筋が整いつつあることから、今後我が国における再生医療の実用化が促進され、自家培養軟骨ジャック[®]に続く日本発の再生医療製品が生み出されることを期待しています。また、私自身も培養軟骨移植に続く次世代の軟骨再生医療として、骨髄間葉系幹細胞の磁気ターゲティングという治療の開発を行っています。この技術は「再生医療の実現化ハイウェイ」プロジェクトに採択され、すでに臨床研究を開始しており、再生医療製品として実用化を目指しています。



自家培養軟骨ジャック[®]

各賞受賞者リスト

各種表彰等の受賞について 平成26年10月1日～平成27年3月31日

賞の名称	受賞者			受賞理由	授与者	授与年月日			
	専攻等	講座等	氏名						
第67回日本細菌学会中国・四国支部総会 学生優秀発表賞	医歯薬学総合研究科 展開医科学専攻	小児歯科学 (博士課程4年)	達川 伸行	様々な疾患由来の黄色ブドウ球菌臨床分離株を用いて、ゲノム比較解析を行い、特定の疾患の増悪化に関わる病原因子の発現制御のメカニズムを明らかにしたため。	第67回日本細菌学会中国・四国支部総会 総会長	平成26年10月4日			
第18回日本心不全学会学術集会 Y I A 審査講演 (ハートチーム) 最優秀賞	医歯薬保健学研究科 保健学専攻	成人看護開発学 (博士課程後期1年)	水川 真理子	日本心不全学会では心不全の疾病管理介入研究が少ない中、慢性心不全患者に遠隔モニタリングシステムを用いた看護師主導の多職種協働疾病管理プログラムにより、再入院率が低下したことを明らかにした本研究の意義は大きい。	第18回日本心不全学会学術集会会長	平成26年10月12日			
第37回日本高血圧学会総会トラベルグラント	医歯薬学総合研究科 展開医科学専攻	循環器内科学 (博士課程4年)	梶川 正人	「ABIと血管機能の検討：ABI値0.91-0.99症例は血管内皮機能が障害されている」に関する研究発表について高く評価されたため。	第37回日本高血圧学会総会会長	平成26年10月16日			
Fellow of The Japanese Society for the Study of Xenobiotics (日本薬物動態学会フェロー)	医歯薬保健学研究科 応用生命科学部門	生体機能分子動態学 (教授)	太田 茂	これまで長年にわたり、薬物動態学に関する研究、教育を通して医薬品開発や医療に貢献し、国内外を問わず功績があり、引き続き日本薬物動態学会への貢献にも期待されるため。	日本薬物動態学会会長	平成26年10月18日			
9th APOC and 20th MAOISCTE Best Digital Poster Presentation	病院	矯正歯科 (歯科診療医)	角 明美	9th APOC and 20th MAOISCTEにおいて研究内容の発表を行ったところ、当該研究分野において、本研究が高く評価されたため。	9th APOC & 20th MAOISCTE Chairperson	平成26年10月20日			
第73回日本矯正歯科学会大会 学術大会優秀発表賞	医歯薬保健学研究科 応用生命科学部門	歯科矯正学 (教授)	谷本 幸太郎	第73回日本矯正歯科学会大会において研究内容の発表を行い、当該研究分野において本研究が高く評価されたため。	公益社団法人日本矯正歯科学会理事	平成26年10月22日			
		歯科矯正学 (助教)	小島 俊逸						
	病院	矯正歯科 (講師)	加来 真人						
		矯正歯科 (助教)	本川 雅英						
		矯正歯科 (歯科診療医)	角 明美						
		矯正歯科 (歯科診療医)	松田 弥生						
	医歯薬学総合研究科 展開医科学専攻	歯科矯正学 (博士課程4年)	四方 花佳						
	医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻	歯科矯正学 (博士課程3年)	Tahsin Raquib Abonti						
歯科矯正学 (博士課程2年)		小島 将督							
ほか学外者等2名									
The Excellent Poster Award of the 47th Annual Scientific Congress of Korean Association of Orthodontists	医歯薬学総合研究科 展開医科学専攻	歯科矯正学 (博士課程4年)	岡本 友希	2014年第47回韓国矯正歯科学会において、研究ポスター発表が歯科矯正学分野において有意義な発表であると評価されたため。	President of Korean Association of Orthodontists	平成26年11月1日			
	医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻	歯科矯正学 (博士課程3年)	伊達 智美	2014年第47回韓国矯正歯科学会において、研究内容の発表を行い、当該分野において優秀な発表と認められたため。					
第71回中国文化賞 (平成26年度)	医歯薬保健学研究科 応用生命科学部門	分子内科学 (教授) 遺伝子制御科学 (教授)	河野 修興 杉山 政則	同賞は、文化の向上に大きく貢献した中国地方ゆかりの個人、団体に対し、賞を贈って業績をたたえ、広く社会に公表するものである。	中国新聞社代表取締役社長	平成26年11月3日			
平成26年度中国地方発表明彰 広島県発明協会会長賞	医歯薬保健学研究科 統合健康科学部門	スポーツリハビリ学 (教授)	浦邊 幸夫	「外反母趾対策靴下」が日本科学技術の向上と産業の振興に多くの貢献をしたと評価されたため。	一般社団法人広島県発明協会会長	平成26年11月5日			
ほか学外者等1名									
第111回日本内科学会中国地方会 奨励賞 Young Investigator Award	医歯薬保健学研究科 応用生命科学部門	循環器内科学 (特任助教)	土肥 由裕	「心肺運動負荷テストは肺高血圧症スクリーニングに有用である」に関する研究発表について高く評価されたため。	第111回日本内科学会中国地方会会長	平成26年11月8日			
第66回西日本泌尿器科学会総会 学術奨励賞	病院	泌尿器科 (講師)	梶原 充	「ロコモティブシンドロームと過活動膀胱の関連性について」は、わが国で初めて両者の関連性を妥当性のある質問票を用いて大規模検討したものであり、受賞に値すると判断されたため。	第66回西日本泌尿器科学会総会会長	平成26年11月8日			
		泌尿器科 (助教)	井上 省吾	単孔式腹腔鏡下副腎摘除術と従来法の腹腔鏡下副腎摘除術について、整容性および満足度を縦断的に検討した初めての報告であり、女性において単孔式は従来法と比較して整容性および満足度が高いことを報告したことが評価されたため。					
		泌尿器科 (医科診療医)	馬場崎 隆志	「低強度体外衝撃波によるED治療効果の検討－陰茎プレチスモグラフィを用いた客観的評価－」が特に優秀と認められたため。					
	医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻	医学専門プログラム (博士課程1年)	関野 陽平	「ロボット支援前立腺全摘除術症例における腫瘍－被膜間距離の予測」の発表を行い、優秀であると認められたため。					

各賞受賞者リスト

賞の名称	受賞者			受賞理由	授与者	授与年月日
	専攻等	講座等	氏名			
平成26年度日本薬学会中国四国支部奨励賞	医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門	生体機能分子動態学 (助教)	佐能 正剛	ヒトにおける医薬品の肝毒性および代謝物のin vitro, in vivo予測評価系の構築に関する研究の成果が高く評価されたため。	日本薬学会中国四国支部支部長	平成26年 11月8日
第67回広島医学会総会 ポスター演題優秀賞	病院	泌尿器科 (医科診療医)	馬場崎 隆志	「低強度体外衝撃波 (ED1000) によるED (勃起不全) 治療の検討」が、各セッションの座長推薦により、優秀賞を受賞した。	広島医学会会頭	平成26年 11月9日
日本新生児看護学会 学術最優秀賞	医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門	健康情報学 (助教) 助産・母性看護開発学 (助教)	村上 真理 船場 友木	論文「ファミリーセンタードケアに基づいた看護実践に関するNICU看護師の認識」は新生児看護領域において、独創的な前提や仮説、方法論などに基づく研究論文であることが評価されたため。	日本新生児看護学会 理事長	平成26年 11月10日
平成26年度医学教育等 関係業務功労者表彰	病院	看護部 (副看護師長) 診療支援部 (主任臨床検査技師)	富永 勇 原田 昌子	医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し顕著な功労があったため。	文部科学大臣	平成26年 11月20日
第62回日本化学療法学会 西日本支部総会 日本 化学療法学会西日本 支部奨励賞-臨床部門-	医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門	臨床薬物治療学 (特任助教)	横山 雄太	第62回日本化学療法学会西日本支部総会において発表演題「薬剤耐性緑膿菌に対するコリスチン単剤・併用投与法のPK-PD検討」は優れた研究業績と認められたため。	第62回日本化学療法学会 西日本支部総会 会長	平成26年 12月1日
第105回日本循環器学会 中国地方会 Young Investigator's Award	医歯薬学総合研究科 展開医科学専攻	循環器内科学 (博士課程4年)	松本 武史	「原発性アルドステロン症のタイプ別による動脈硬化リスクの検討」に関する研究発表について学術性・独特性・表現法が高く評価されたため。	第105回日本循環器学会 中国地方会 会長	平成26年 12月6日
第26回日本レーザー歯 学会学術大会 優秀発表 賞	医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門	歯科矯正学 (助教)	國松 亮	第26回日本レーザー歯学会学術大会において研究内容の発表を行ったところ、当該研究分野において、本研究が高く評価されたため。	日本レーザー歯学会 理事長	平成26年 12月7日
第9回高血圧と冠動脈 疾患研究会 研究賞	医歯薬学総合研究科 展開医科学専攻	循環器内科学 (博士課程4年)	松本 武史	研究発表について学術性・独特性・表現法が高く評価されたため。 (研究課題名: 原発性アルドステロン症タイプ別による血管内皮機能と新規動脈硬化促進因子Rho-associated kinase (ROCK) 活性の検討: Hiroshima Vascular Function Study)	一般財団法人地域医学 研究基金理事長	平成26年 12月20日
広島労働局長表彰	医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門	病理学 (教授)	武島 幸男	広島労働局労災協力医として永年にわたり労働行政の推進に貢献したため。	広島労働局長	平成26年 12月24日
第9回日本化学療法学会 西日本支部支部長賞	医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻	外科学 (博士課程3年)	嶋田 徳光	第62回日本化学療法学会西日本支部総会において、「近畿地区で検出されたblaIMP-34を保有するプラスミドpKOI-34の解析」が一般演題の中から選定され、優秀であると認められたため。	日本化学療法学会西 日本支部支部長 第62回日本化学療法学会 西日本支部総会 会長	平成27年 1月1日
平成26年度日本薬学会 中国四国支部学生発表 奨励賞	医歯薬保健学研究科 薬科学専攻	生体機能分子動態学 (博士課程前期1年)	高木 優志	平成26年度日本薬学会中国四国支部学生発表において優れた研究成果を上げたため。	日本薬学会中国四国 支部支部長	平成27年 1月10日
	薬学部	薬学科 6年	中元 智子			
	薬学部	薬科学科 4年	宮本 未緒花			
第3回日本バイオマテ リアル学会中四国シン ポジウム 優秀発表賞	医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻	歯科矯正学 (博士課程3年)	杉野 浩孝	第3回日本バイオマテリアル学会中四国シンポジウムにおいて研究内容の発表を行い、当該研究分野において本研究が高く評価されたため。	日本バイオマテリアル 学会中四国シンポ ジウム運営委員長	平成27年 1月28日
Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞	医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門	薬効解析科学 (教授) 薬効解析科学 (准教授) 薬効解析科学 (助教)	仲田 義啓 森岡 徳光 中島 一恵	2013年度中にJournal of Pharmacological Sciencesに掲載された論文の中から特に優れた内容の論文として認められたため。	公益社団法人日本薬 理学会 理事長	平成27年 3月19日
30th Anniversary Congress of the European Association of Urology. Best Poster	医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門	腎泌尿器科学 (講師)	亭島 淳	「Renal Cell Cancer, Systemic Therapy」のセッションにおいて優秀な演題と評価されたため。	Professor, EAU secretary General	平成27年 3月20日
	病院	泌尿器科 (助教)	正路 晃一	「Prostate Cancer, Identification of men at high risk for PCA」のセッションにおいて優秀な演題と評価されたため。		
平成26年度入澤宏・彩 記念JPS心臓・循環論 文賞	医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門	生理機能情報科学 (教授) 生理機能情報科学 (助教) 生理機能情報科学 (契約一般職員)	松川 寛二 梁 楠 石田 知子	The Journal of Physiological Sciences Vol.64に掲載された論文が編集委員会の推薦により、平成26年度入澤宏・彩記念優秀論文に選ばれ、業績が高く評価されたため。	一般社団法人 日本 生理学会 理事長	平成27年 3月22日
	医歯薬保健学研究科 保健学専攻	生理機能情報科学 (博士課程後期3年)	石井 圭			
		生理機能情報科学 (博士課程前期2年)	井手迫 光弘			
平成26年度入澤宏・彩 記念若手研究奨励賞 心臓・循環部門	医歯薬保健学研究科 保健学専攻	生理機能情報科学 (博士課程後期3年)	石井 圭	顕著な研究業績を有するとともに、将来日本生理学会で活躍が期待されるため。	一般社団法人 日本 生理学会 理事長	平成27年 3月22日

米国ミネソタ大学留学便り

上神 慎之介 広島大学病院 消化器診療科 消化器外科 医科診療医 (当時)

私は現在、ミネソタ州にあるミネソタ大学の¹大腸外科に留学しています。ミネソタ州はアメリカ合衆国中西部の北側に位置し、北はカナダと国境を接しています。「1万湖の州」のニックネームを持ち、車のナンバープレートにも「10,000 Lakes」と記載されているように、いたるところに大小様々な湖が点在し、とても自然が豊かなところです。大陸性気候のため、冬の寒さは想像以上に厳しく、湖や川も凍りついてしまうほどですが、周囲の人々はとても優しく、私たち家族も少しずつこちらでの生活を楽しめるようになってきました。

州都はセントポールで、ミシシッピ川を隔てて対岸に位置するミネアポリスと合わせて「ツインシティーズ」と呼ばれています。衣料品に税金がかからないためショッピングに適した街と言われ、全米最大のショッピング・モールである「モール・オブ・アメリカ」があることでも知られています。

ミネソタ大学も基幹校は「ツインシティー校」と呼ばれ、キャンパス内をミシシッピ川が流れています。大腸外科はMadoff教授が主宰され、大腸癌、炎症性腸疾患、憩室疾患、骨盤機能障害など幅広く臨床と研究を行っています。私は大腸癌に関する臨床研究に加えていただき、直腸癌患者の予後について研究を行っています。大学を含めた数施設での外来、検査、手術見学、各種カンファレンスの出席も自由にさせていただき、日本では見る機会がほとんどない直腸肛門機能検査や手術、さらに日常的に行われているロボット手術も見学することができ、臨床医としても非常に勉強になっています。また大腸外科の先生はもちろんですが、海外からの留学生、見学者など様々な人々と意見交換できることも私にとって大変貴重な経験になっています。

帰国した際には、こうした経験を少しでも臨床の場に活かせれば幸いです。最後になりましたが、留学の機会を与えていただきました末田教授、大毛教授をはじめ、関係者の皆様方に心より御礼申し上げます。



大学病院入院棟



ミネアポリスの中心部

院生の国際学会参加報告

※所属等は全て学会参加当時のものである。



Digestive Disease Week (DDW) 2014(シカゴ)に参加して

朝山 直樹 医歯薬保健学研究科 博士課程2年 医歯薬学専攻
消化器・代謝内科学研究室

私は米国シカゴで平成26年5月3日から6日にかけて開催された、Digestive Disease Week (DDW) 2014に参加させて頂きました。McCormic Placeという北米最大の総合コンベンションセンターで、肝臓病学会・消化器病学会・消化器内視鏡学会・消化器外科学会の4つの学会総会が同時に行われました。連日多くの発表や口演があり、大学院生としてのみならず一人の医師としても知識や経験の習得に大きな意

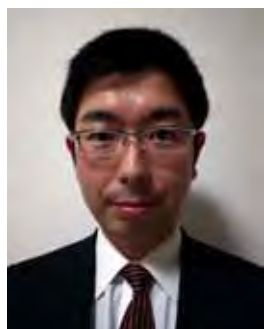
義がありました。私は当院における大腸T1癌治療後の中長期予後に関してポスター発表いたしました。内視鏡的摘除された大腸T1癌は「大腸癌治療ガイドライン」にてリンパ節転移の可能性が極めて低く経過観察可能な病変に関して一定のコンセンサスが得られています。しかし、この条件は外科的切除、あるいは内視鏡摘除後に外科的切除がなされた大腸T1癌症例の解析結果に基づくものであり、内視鏡的摘除後実際に長期経過観察した大腸T1癌の報告や、再発の頻度や再発形式に関する報告は少ないです。今回、当院における大腸T1癌治療後の中長期予後を解析し、大腸癌治療ガイドラインの妥当性と再発形式を検討いたしました。演題の中には同じ研究室のメンバーと似たテーマの発表もあり、既に結果の蓄積されているそれらの研究の後追いにならないためにも、独自の視点を持って研究を発展させることの必要性を感じました。更に、自分の英語の不十分さも痛感しました。ポスターセッションでは自分の意見を伝えるために最適な言葉が出ず、円滑なディスカッションができなかったことを残念に思いました。本学会は、研究のための情報収集の場としても、研究者として自分に足りないものを認識する機会としても、非常に貴重な体験となりました。このような機会を与えてくださった先生方、渡航にあたりご尽力いただいた医歯薬学保健研究科に、心より感謝いたします。



Asia Pacific Stroke Conference 2014(台北)に参加して

久保 智司 医歯薬保健学研究科 博士課程3年 医歯薬学専攻 脳神経内科学研究室

Asia Pacific Stroke Conference 2014が2014年9月12日から14日に台湾の台北で開催されました。脳卒中においてはアジア人と欧米人との相違が指摘されており、アジアにおける脳卒中を考える貴重な機会でした。私は「Relationship between daily blood glucose fluctuation and neurological outcome in acute ischemic stroke patients with diabetes mellitus」の題でポスター発表を行いました。脳卒中に限らず、急性心筋梗塞や感染症など種々の疾患で急性期に高血糖を呈し転帰を悪化させることが報告されています。近年、血糖変動の大きさも転帰悪化の因子として注目されるようになりましたが、脳卒中における血糖変動と転帰の関係は不明とされてきました。今回、変動の指標としてsuccessive variationを使用し糖尿病を合併した急性期脳梗塞患者を対象に検討したところ、血糖変動の増大が転帰の悪化と関連している可能性が示されました。今後、さらに詳細な検討を加え研究を進めていきたいと思っております。最後になりましたが、このような機会を与えて下さった松本昌泰教授をはじめ多くの先生方、ならびに海外発表支援を頂いた医歯薬保健学研究科に心より感謝申し上げます。



5th Cervical Spine Research Society Asia Pacific Section(ホーチミン)に参加して

宇治郷 諭 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 整形外科科学研究室

このたびは越智光夫教授のご高配で平成26年4月3日から5日にかけてベトナム・ホーチミン市で開催された5th Cervical Spine Research Society Asia Pacific Sectionに田中信弘先生、中西一義先生、平松武先生、住吉範彦先生とともに参加させていただきましたのでご報告いたします。

私は歯突起後方腫瘍という第2頸椎歯突起の後方に発生して脊髄を圧迫する腫瘍に対して、硬膜を切開して切除するという新しい治療方法について口演発表いたしました。直前の発表が同じ疾患の発表であったため、開口一番「前の発表と同じですけど、繰り返しじゃありませんよ。」と冗談を言ったつもりでしたが、会場が静まり返ってしまいました。学会期間中にあれほど会場が静かになったことはなかったと思います。発表後に見知らぬインドの先生から「日本人にしては珍しい。よかったよ。」との言葉を頂けたことは、私にとってせめてもの救いでした。質問もいくつかいただきましたが、拙い英語で何とか返答した記憶があります。

また、懇親会では海外からの参加者のみならず、国内の学会ではなかなかお話しできないような日本の先生方と交流を深めることができました。こういった機会があることが、海外の学会に参加する大きな利点だと思われまます。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えていただきました越智教授をはじめ医局の先生方にこの場を借りて深謝申し上げます。



Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society Asia-Pacific Annual Conference 2014(大邱市、韓国)に参加して

清水 良 医歯薬保健学研究科 博士課程3年 医歯薬学専攻 整形外科科学研究室

今回、私は2014年9月24日から27日に韓国の大邱市で開催されたTissue Engineering and Regenerative Medicine International Society Asia-Pacific Annual Conference 2014 (TERMIS-AP)に参加させていただきましたので報告させていただきます。Internationalな学会は3年毎に開催されており、大陸別の学会はヨーロッパ、北米、アジア太平洋地域に分けられ、1、2年毎に開催されております。

参加者の6割ぐらいが韓国からで、比較的若い研究者が集まっている印象がありました。

今回私は、「The Mechanism of Cartilage Repair Promoted by Scaffold Free Chondrocyte Sheet in Rat Model」というタイトルでScaffold Freeのセッションで口頭発表をさせていただきました。発表時間が12分間で比較的長い時間を与えられましたので、今まで研究してきた内容をほとんど網羅して発表することができました。再生医療、組織工学の学会でしたので、自分の専門分野以外の内容も多かったのですが、アジア圏の若い先生方が積極的にメモを取ったり質疑応答をしたりしていたのが印象的で、今後の刺激になりました。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えていただいた越智教授をはじめ、教室の先生方にはこの場をおかりして深謝いたします。

院生の国際学会参加報告



ヨーロッパ心臓病学会学術集会 (ESC Congress) 2014 (バルセロナ) に参加して

池永 寛樹 医歯薬保健学研究所 博士課程2年 医歯薬学専攻 循環器内科学研究室

ヨーロッパ心臓病学会学術集会 2014 (European Society of Cardiology Congress: ESC Congress 2014) が2014年8月30日から9月3日までスペインのバルセロナで開催され、参加してきました。この学会は循環器関連では世界最大の参加人数を誇る学会で、今年は3万人を超え、会場はどこかの万博会場かと間違えるぐらいの広さで、その規模に圧倒されました。今回3D経食道心エコーでの三尖弁拡大と三尖弁逆流の相関と、肥大型心筋症の心房細動に対するカテーテルアブレーションの効果に関しての2つのポスター発表をさせていただきましたが、ポスターを張り、1時間程度の質疑応答の時間には張ったポスターの前で対応するものでした。日本人がとても多く、日本語、英語を問わず質問していただき、今後の自分の研究に役立つ貴重なアドバイスをいただきました。しかしやはり英語が苦手な為、言いたいことがなかなか言えなかったのが反省点です。学会が終わる夕方からは観光に行きましたが、バルセロナは観光スポットが沢山あり、ずっと行きたかったサグラダファミリアの壮大さには感激しました。サッカーの試合も見に行きましたが、開始時間が夜の11時からと遅く、試合自体は白熱して楽しかったのですが少し眠かったです。今回の学会へ参加させていただき、医局の先生方、誠にありがとうございました。またいつもご指導いただいております木原教授には大変感謝しています。今回の学会参加、発表を糧に今後の研究をこれからも頑張っていきたいと思っております。



The Pulse of Asia 2014 (アテネ) に参加して

梶川 正人 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 循環器内科学研究室

2014年6月12日から13日までギリシャ アテネで開催されたThe Pulse of Asia 2014に参加しました。今回、私は“Combination of Flow-mediated Vasodilation and Nitroglycerine-induced Vasodilation for Prediction of Cardiovascular Events”という演題でポスター発表を行いました。血管内皮細胞は動脈硬化の初期に障害されます。血管内皮機能障害は可逆性であることから早期に発見・治療することが重要です。血管内皮機能評価法であるFMDが、その後の心血管イベント発症に関与することは広く知られています。本研究はFMDに加えニトログリセリン舌下投与による血管径の変化(NID)を評価することにより、その後の心血管イベント発症リスクの層別化ができることを報告しました。多くの参加者たちから、質問やアイデア、意見をいただくことができました。中には厳しい意見もありましたが、論文にしていくうえでとても参考になりました。

この経験は、今後私が研究活動を行っていくうえで非常に有意義なものとなりました。このような機会を与えてくださった諸先生方、大学院生海外発表支援の関係者の皆様に感謝いたします。



Digestive Disease Week (DDW) 2014(シカゴ)に参加して

嶋田 賢次郎 医歯薬保健学研究科 博士課程2年 医歯薬学専攻
消化器・代謝内科学研究室

今回、私はアメリカのシカゴで、平成26年5月3日から5月6日にかけて開催された、Digestive Disease Week (DDW) 2014に参加させて頂きました。開催会場はMcCormick Placeという北米最大と言われる総合コンベンションセンターで、まずその会場の巨大さに圧倒されました。

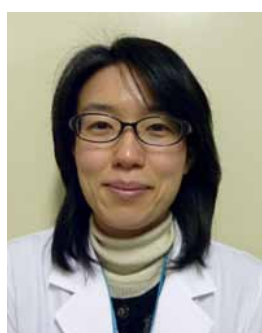
私の発表は、大腸側方発育型腫瘍 (Laterally spreading tumor: LST) のgranular type (LST-G) の細分類の有用性に関する報告です。

大腸LSTという概念は日本より提唱された食道や胃の「表層拡大型腫瘍」と同様のニックネーミングで、現在世界各国で使用されていますが、平面上の大きさの割に深部への浸潤が乏しい病変であるためESDを含めた内視鏡治療適応となる病変が多いことが特徴です。従来の肉眼形態分類とは異なるため『大腸癌取扱い規約』には記述されていませんでしたが、2013年7月の改訂に際して、その定義が内視鏡画像の提示も含めて詳細に掲載されました。

LST-Gは顆粒均一型と結節混在型の2つに分類されていますが、これまで学会や論文の報告をみると、概念上では理解できていても、実際症例と照らし合わせた際に個人間や施設間で分類が一致しないことも多く、悪性度の低い顆粒均一型を正確に診断できない症例が存在しているのが現状です。

今回の発表ではLST-Gを結節の大きさや形態別に4つに細分類し、その臨床病理学的特徴を示すことで、細分類が大腸LST-Gの治療方針決定に非常に有用であるという発表をさせていただきました。会場ではこの細分類に関する質問も多く、世間での関心を肌で感じるとともに今回の知見をより深めていく意思が一層強くなった発表となりました。

最後に、このような発表の機会を与えてくださった先生方、および海外発表支援関係者の方々に深く御礼申し上げます。



2014 World Forum on Biology(サバンナ)に参加して

濱田 充子 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 創生医科学専攻
分子口腔医学・顎顔面外科学研究室

今回私は、2014年5月31日から6月4日にかけてアメリカ合衆国ジョージア州サバンナで行われた、2014 World Forum on Biologyに参加させて頂きました。この学会は植物及び動物について細胞、組織、器官のin vitro生物学の知識交換を促進する組織培養学会として、毎年開催されている国際学会です。私はセンダイウイルスペクターを用いた無血清培養条件下でのヒト歯髄細胞からのiPS細胞誘導方法について、ポスター発表しました。基本的にはポスターを掲示して質問を受けるというスタイルでしたが、幅広い研究分野を網羅した学会であったため、動物細胞を全く扱ったことのない方に自分の研究内容を発表するという場面もありました。その際、自分の語学力不足を痛感するとともに自身の研究内容への知識や考察が不足していることを改めて気付かされました。また、同世代の海外研究者とも交流する機会があり、日本以外の国の研究者の置かれている環境等についても学ぶことができました。今回、初めての国際学会への参加でしたが、このような貴重な経験をさせて頂いたことに感謝しつつ、今後はこの経験を活かして研究を進めるとともに語学力やコミュニケーション能力を身に付ける努力をしていきたいと思っております。

院生の国際学会参加報告



International Society for Extracellular Vesicles(ロッテルダム)に参加して

岡田 恵 医歯薬保健学研究科 博士課程1年 医歯薬学専攻 細胞分子生物学研究室

私は、2014年の4月30日から5月3日の期間で、オランダのロッテルダムで開催されましたInternational Society for Extracellular Vesicles (以下 ISEV) に参加させて頂きました。ISEV は、細胞外膜小胞に関する唯一の国際学会です。細胞外膜小胞とは、細胞から分泌される様々な膜小胞を総称したもので、細胞間コミュニケーションツールとして注目されています。その中でも近年特に注目を集めているのが、miRNA を内包し他細胞に対して機能している、エクソソームです。

私は、加齢によるエクソソームの質的・量的な変化を明らかにすることを目的に、老化細胞由来エクソソームの機能解析という内容で研究を行っております。細胞が継代老化を迎えるとエクソソームの分泌量が上昇すること、その分泌亢進に関わっている p53 下流因子を明らかにしました。さらに老化細胞から分泌されたエクソソームは、がん細胞の生存能や増殖能や浸潤能を有意に抑制することが分かりました。

こちらの内容にてポスター発表を行い、たくさんの方とディスカッションすることができました。事前に自分の研究内容を英語で紹介する練習はしていましたが、頂いた質問に対して自分の言いたいことを的確に即座に伝える難しさ、また全く異分野の方に自分の研究背景や細胞老化に関する基本的な事項を英語で正確に説明する難しさを痛感しました。また、ISEV は専門性の高い学会であるため、エクソソームを扱う上での具体的な議論や、最先端のエクソソーム研究に触れることができ大変勉強になりました。今回の貴重な体験を今後の研究活動に生かしていきたいと考えております。

最後になりましたが、ISEVでの研究発表にあたり、広島大学基金による日本人大学院生海外発表支援金のご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。また本研究にあたり、ご指導、ご鞭撻を賜りました、細胞分子生物学研究室 田原栄俊教授、嶋本顕准教授、田原研究室の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。



The 25th International Nursing Research Congress(香港)に参加して

福岡 泰子 保健学研究科 博士課程後期3年 保健学専攻 成人看護開発学研究室

平成26年7月24日から28日にかけてHong Kongで行われましたSigma Theta Tau Internationalが主催する 25th International Nursing Research Congressに参加させていただき、ポスターセッションにて“The Development of educational tool to support disease management nurses for preventing the recurrence of brain infarction.”の演題で発表させていただきました。この学会は、看護界では国際看護師協会に次ぎ2番目に大きい組織の主催であったため、香港、台湾、韓国などのアジアのほか、アメリカ、カナダ、イタリア、チリなど約50か国から看護師や研究者が参加されていました。私の発表のテーマであるDisease managementは多くの国で取り入れられています。そのため、発表に興味を示された方も多く、私の拙い英語でも真剣に理解しようとする姿勢に、私自身の英語の能力の必要性を痛感したと同時に、海外でのコミュニケーション方法についても多くを学ぶことができました。このように、多数の意見をいただくことができたことは、今後の研究だけでなく私個人のモチベーション向上にもつながる良い機会になったと感じております。

最後になりましたが、国際学会に参加する機会を下さった先生方、また、ご支援を頂いた医歯薬保健学研究科総務支援グループには、この場を借りて心よりお礼を申し上げます。



Sigma Theta Tau International's 25th International Nursing Research Congress(香港)に参加して

竹下 八重 医歯薬保健学研究科 博士課程後期3年 保健学専攻
成人看護開発学研究室

日本では、80%の高齢者が家で死にたいと希望しているにも関わらず実際に在宅で死亡したのは10%であり、終末期の希望を叶えることが難しい現状があります。そこで、私は高齢者が希望する終末期を過ごすことができる地域を構築することを目指し、アクションリサーチを行うこととしました。その取組みの中で、地域の支援者である医師や看護師、ケアマネージャーなどに支援を行う際に現状の中で困難だと認識していることについて調査し、香港で平成26年7月24～28日にかけて行われたSigma Theta Tau International's 25th International Nursing Research Congressで報告しました。日本は世界に類をみないほど高齢化が進行しており、今後どのように終末期まで支援をしていくのかということに興味を持った方もおられ、質問者の各国の状況についてもディスカッションすることができました。日本国内では延命治療や終末期の療養場所における患者本人の意思の尊重に関して議論が続いていますが、海外でも同様の状況にある国が多くあることを知り、日本の動向が注目されていることを実感しました。

この度の経験は今後私が研究活動を行っていく上で、非常に有意義なものとなりました。このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。



7th World Congress of Biomechanics(ボストン)に参加して

岩本 義隆 医歯薬保健学研究科 博士課程前期2年 保健学専攻
生体運動・動作解析学研究室

2014年7月7日から11日にかけてアメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストンにて行われた7th World Congress of Biomechanicsに参加させていただきました。Influence of decreased toe grasp strength on dynamic balanceという題目でポスター形式にて発表させていただきました。自身にとって初めての国際学会でしたが、規定の時間の内外を問わず多くの方に質問していただき非常に有意義な時間となりました。

足趾把持筋力が低下した健常若年者に対して前方牽引を加えた際の反応に関して発表させていただいたのですが、海外の研究者の方はどのような機器を用いて行ったのかという点や結果としてどの値がどの程度変化しているのかという点に興味を持たれており、私にとってこのことは新鮮でした。

海外研究者のポスターや口述発表用のスライドは非常にシンプルで、内容に関して深く理解してもらうために原稿を読むわけではなく身振り手振りを交えながら、口頭で多くの内容を語っていました。また、質問に来られる方の中には要約して説明することを求められる方もおり、改めて語学力の必要性を痛感しました。

今後も国際学会には積極的に参加し、海外研究者とディスカッションを行うことによって自身の知見を深め、自らの研究の参考にしたいと考えております。最後になりますが、このような機会を与えてくださった新小田幸一教授、ならびに海外発表支援をくださった医歯薬保健学研究科に感謝いたします。

院生の国際学会参加報告



7th World Congress of Biomechanics(Boston)に参加して

谷本 研二 医歯薬保健学研究科 博士課程後期2年 保健学専攻
生体運動・動作解析学研究室

この度、私は2014年7月6日から11日にかけてアメリカ合衆国マサチューセッツ州のボストンで開催された7th World Congress of Biomechanicsに参加し、「Fractal Dynamics of Ground Reaction Force Time Series During a Repetitive Stepping-in-Place」という演題で、ポスター発表を行いました。動作解析研究では、解析パラメータとして複数試行の平均値を用いることが一般的ですが、繰り返し行われる人の動作は試行毎にわずかに変動しています。平均値のみでなく変動の成り立ちについて知ることで、運動調節のメカニズムについてさらなる知見が得られます。今回の発表では、これまで研究されてきたストライド時間にだけでなく、床反力にも長時間相関という変動の成り立ちの特性が存在することを報告しました。

今回参加した学会では、自分の研究テーマに関連する変動の成り立ちに着目した研究発表も数題あり、質問やディスカッションを行えたことは、方法論や解釈について知見を広げるための良い機会となりました。しかし、ディスカッション内容のすべてを聞き取り理解すること、また自分の考えを適切に伝えることも難しかったため、そこが今後の課題となりました。

この学会で得られた知識や刺激を基に、今後も質の高い研究、質の高いプレゼンテーションを国際的にも発信できるよう努めていきたいと思えます。

最後になりましたが、この学会に参加するにあたり、指導して頂いた先生方、またご支援を頂いた広島大学大学院医歯薬保健学研究科に深く感謝申し上げます。



XX Congress of the International Society of Electrophysiology and Kinesiology(ローマ)に参加して

伊達 翔太 医歯薬保健学研究科 博士課程前期2年 保健学専攻
上肢機能解析制御科学研究室

私は、大学院医歯薬保健学研究科海外発表支援を受け、2014年7月15日から18日にかけてイタリアのローマで開催されたXX Congress of the International Society of Electrophysiology and Kinesiologyに参加し、ポスター発表を行いました。演題名は「The Effect of Transcranial Direct Current Stimulation on Motor Related Areas during Motor Imagery」で、手を動かす運動をイメージする課題の前後に、脳の大脳皮質を賦活させる方法の1つである経頭蓋直流電気刺激を実施し、その運動のイメージ能力が向上するのかを検討した内容でした。多くの方から貴重なご意見、ご質問をいただき、本研究の参考になりました。また、他のポスター発表や口演発表を聴き、日本人のみの学会では得られない着想に触れることができました。さらに、私が研究している分野以外の研究や第一線で活躍している方々の講演なども、興味深いものでした。ただ、英語での発表は聞き取れないことも多くあり、自分の英語力の低さを感じました。今後よりよい英語でのプレゼンテーション・ディスカッションができるように努力していきたいと思えました。

今回、このような機会を与えていただきました、諸先生方、大学院生海外発表支援関係者の皆様に御礼申し上げます。



NEUROSCIENCE 2014(ワシントン、DC)に参加して

神垣 真由美 医歯薬保健学研究科 博士課程3年 医歯薬学専攻 神経薬理学研究室

2014年11月15日から19日にアメリカ合衆国Washington、DCで行われたNEUROSCIENCE 2014に参加しました。NEUROSCIENCEは大変大きな学会で色々なテーマで発表があり、なかでも私の研究テーマであるミクログリアについての発表は非常に多く、発表内容はもちろんのこと英語の発音・表現方法などもとても勉強になりました。私は「Mechanism of TLR4-mediated survival of microglia: Roles of GM-CSF self-production and the activation of JAK2/STAT5 signaling pathways」というタイトルでポスター発表を行いました。共同演者の先生のサポートも受けながら拙い英語で説明・質疑応答しました。多くの研究者に質問をいただき、今後の検討に生かせるアイデアを得ることが出来ました。発表前は英語で話すことに抵抗感がありましたが、発表を終えた後はそれも薄らぎ、外国の研究者にも質問することが出来るようになりました。とはいえ、英語で話す際に自分の考えをスムーズに伝えられず、何度も歯がゆい思いをしました。これをバネに今後英語力を向上させていきたいと思えます。本学会に参加したことは、研究に対しても語学力に対してもモチベーションが上がる貴重な経験となりました。

最後に、学会参加にあたりご指導いただいた先生方、ご支援くださった本学関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



北米神経科学会 Neuroscience 2014(ワシントン、DC)に参加して

宮城 達博 医歯薬保健学研究科 博士課程3年 医歯薬学専攻 神経薬理学教室

私は、2014年11月15日から19日にかけてアメリカ合衆国ワシントンDCにて開催された北米神経科学会 (Neuroscience 2014) に参加させていただきました。今回私は「The subcellular localization and local function of Gs-linked receptor GPR3 in neuronal cells」という演題でポスター発表させていただきました。GPCRファミリーに属するGPR 3は中枢神経系に豊富に発現し、恒常的なGs活性を有することが知られています。我々はこれまでにGPR 3の発現が神経突起伸長や生存に寄与することを報告してきました。

今回はGPR 3の脳における発現分布や神経細胞内におけるタンパク質局在や動態、機能について新たな知見を報告させていただきました。ポスター形式の発表でしたが、多くの方に注目いただき大変有意義な発表が行えました。初めての海外での英語での発表ということもあり、内容を正しく理解してもらえるか、質疑が聞き取れるかという不安がありましたが、ポスターの図やメモなどを駆使し、討論を行い、貴重な意見をいただくことが出来ました。さらに、神経突起内におけるGPR 3タンパク質の動態について動画を用いて紹介したところ、大変関心を持っていただけました。

また海外の研究者の発表に対して質疑する機会もあり、国内学会とは異なる経験ができたことは、私にとって非常に大きな収穫であり、今後の課題を実感する良い機会になりました。

この度は、このような機会を与えて下さいました先生方、ならびに海外発表支援制度に深く感謝申し上げます。

院生の国際学会参加報告



AASLD The Liver Meeting 2014(米国肝臓学会)(ボストン)に参加して

内田 宅郎 医歯薬保健学研究科 博士課程2年 医歯薬学専攻
消化器・代謝内科学研究室

私は、2014年11月7日から11月11日にかけてアメリカのボストンで開催されたAASLD The Liver Meeting 2014(米国肝臓学会)に参加させていただき、ポスターセッションにおいて、“Establishment of a mouse model of acute hepatitis B by activation of human cytotoxic T lymphocytes”と“A novel humanized cDNA-uPA/SCID mouse for the study of HBV and HCV infections”の2演題でポスター発表をさせていただきました。参加国は全世界にわたり、基礎・臨床問わず肝臓領域の数多くの演題があり、初めての国際学会だったため、学会の規模、参加人数、会場の大きさに圧倒されました。このような場に参加する機会をいただき非常に貴重な経験をすることが出来ました。全世界規模の国際学会で、最先端の研究成果、新規治療薬の現状などを確認することで、現在行っている研究を客観的に考察することもできました。

拙い英語のためコミュニケーションを交わすことが難しく、国内だけでなく海外での学会発表ができるためにも英会話能力の向上が必要であると感じました。最後になりますが、このような機会を与えて下さり、指導して頂いた先生方、またご支援いただいた医歯薬保健学研究科に感謝申し上げます。



AASLD The Liver Meeting 2014(ボストン)に参加して

苗代 典昭 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 創生医科学専攻 消化器代謝内科学専攻

今回、私は2014年11月7日から11月11日までアメリカ合衆国のボストンで開催されました

“American Association for the Study of Liver Diseases, The Liver Meeting 2014”に参加いたしましたのでご報告させていただきます。私はVarices and BleedingというSessionで学位論文にも用いた“The long-term outcome of patients with gastric varices treated by balloon-occluded retrograde transvenous obliteration”という胃静脈瘤に対するB-RTO治療の長期成績の100例をまとめて報告いたしました。B-RTOは日本人のKanagawaらによって1996年に発表された手法であり、欧米では現在でもいまだ積極的に行われていない手法です。学会でも静脈瘤に対するB-RTO治療は、日本を初めとして韓国、中国などアジアからの発表が多かったです。IVR治療ですので手術に比べてはるかに侵襲が少なく、かつ胃静脈瘤に対して根治治療が期待できる優れた治療法です。私の発表でも、治療成功率は97%と高率で有害事象もほとんどみられないという結果でした。学会会場でも、B-RTOの優れた有効性と安全性について質問を受け、この治療に対する関心の高さが実感できました。

今回の国際学会への参加において、様々な国の発表を見聞して、疾患に対する考え方や治療法を違う角度から検討することができ、自分の考え方について改めて見つめなおすことができました。

このような発表の機会を与えてくださった皆様に深く御礼申し上げます。



米国肝臓病学会(AASLD THE LIVER MEETING 2014)(ボストン)に参加して

福原 崇之 医歯薬保健学研究科 博士課程3年 医歯薬学専攻
消化器・代謝内科学研究室

2014年11月7日から11日まで、アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストンで開催されました米国肝臓病学会(AASLD THE LIVER MEETING 2014)に参加させていただきました。発表内容は初発肝細胞癌根治治療後の初回再発癌に対するラジオ波焼灼療法(RFA)に関する検討で、ポスター形式での発表を行いました。肝臓癌は他の癌腫と比較し再発率は高率であるため、再発癌に対する治療選択が長期予後の改善にとっても重要になってきます。再発肝癌に対する治療アルゴリズムは確立されておらず、活発な議論が交わされました。英語での返答に窮する場面もありましたが、海外医師とのコミュニケーションは非常に刺激的であったことが思い出されます。

ボストンは、かの有名なボストンマラソンの開催地でもあり、早朝よりチャールズ川沿いを多くのランナーが走っています。私も毎朝6時より彼らに混じって気持ちの良い汗をかくことができました。学会参加をはじめ充実した毎日であり、今後の診療および研究を続けて行く上で多くのエネルギーをいただきました。今回の経験を生かして今後も肝臓病診療、臨床研究に精進していきたいと思っております。

ボストンは、かの有名なボストンマラソンの開催地でもあり、早朝よりチャールズ川沿いを多くのランナーが走っています。私も毎朝6時より彼らに混じって気持ちの良い汗をかくことができました。学会参加をはじめ充実した毎日であり、今後の診療および研究を続けて行く上で多くのエネルギーをいただきました。今回の経験を生かして今後も肝臓病診療、臨床研究に精進していきたいと思っております。

最後になりましたが、このような発表の機会を与えていただきました消化器・代謝内科の茶山一彰教授をはじめ、大学院生海外発表支援の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



第65回米国肝臓学会議(AASLD 2014)(ボストン)に参加して

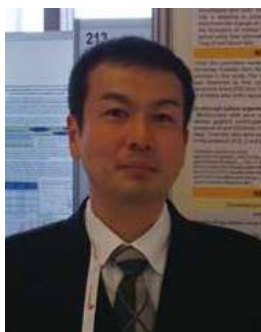
小林 知樹 医歯薬保健学研究科 博士課程3年 医歯薬学専攻
消化器・代謝内科学研究室

この度2014年11月7日から11月11日まで、アメリカのボストンで開催された第65回米国肝臓学会議(AASLD 2014)に参加させて頂きました。初めての海外での国際学会への参加・発表であり、演題登録から発表まで英語でのやりとりには戸惑うことも多くありましたが、有意義な経験をさせて頂きました。

私は「Preoperative predictive value of 18F-FDG PET-CT for microvascular invasion of small hepatocellular carcinoma」という演題を、ポスター形式で発表しました。肝癌における病理脈管侵襲は予後を規定する重要な因子ですが、依然として現在の画像診断法では治療前に診断を行うことが困難な状況です。本研究では¹⁸F-FDG PET-CTが病理脈管侵襲を予測するモダリティとして有用であることを示しました。ポスター会場を中心に参加を行いました。日本人のみならず世界中の研究者・医療関係者が自身の研究成果について発表し活発に議論を交わしている姿を実際に見ることは、今後の自身の研究の大きな刺激となりました。一方で、海外での発表や自身の研究を海外に発信していくには語学力の必要性を再認識させられるものでありました。今回の経験を生かして、今後の日々の研究に努めていきたいと思っております。

最後になりましたが、このような発表の機会を与えてくださいました諸先生方、そして、大学院生海外発表支援関係者の皆様に御礼申し上げます。

院生の国際学会参加報告



第16回欧州免疫不全症学会・ESID(プラハ)に参加して

早川 誠一 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 小児科学研究室

ESIDは原発性免疫不全症の原因や治療に関する研究を推進する目的で設立された学会で、2年に1度開催される学術集会では、新たな疾患に対する議論や情報交換が行われます。今回、'Significant augmentation of regulatory T cells in early neonatal period' という演題で、ポスター発表を行いました。近年、エフェクターT細胞を中心とする炎症細胞を抑制する制御性T細胞（Treg）の自己免疫疾患、アレルギー疾患や腫瘍免疫など多くの病態との関連が報告されています。今回の発表では、新生児期におけるTregの変化をflow cytometryにて解析し、生後早期にTregが一過性に増加する事、それは多様な外来抗原に暴露される胎外環境に対する免疫の適応に重要な役割を果たしている可能性がある事をまとめました。Tregが増加する理由や個々での反応の違いについて質問があり、初めての海外発表で緊張しましたが何とか返答できました。

講演や研究発表では、新規発見された免疫不全症の原因遺伝子の解析に関しての発表が多く、最新の研究についての知見を得ることができました。特に私が研究しているTregの機能に関連するCTLA 4の遺伝子変異による免疫不全症についての発表は興味深く拝聴する事ができました。

最新の研究についての情報や、自身の発表と非常に充実した学会を過ごすことができました。このような機会を与えて下さった諸先生方、大学院生海外発表支援プログラム関係者の方々に感謝致します。



Annual Zhejiang Provincial Continuing Medical Education(杭州)

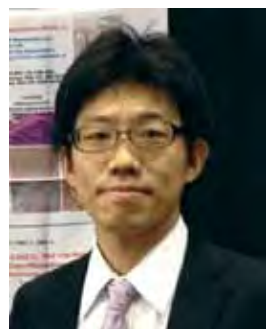
Adhikari Rupendra Bahadur 医歯薬保健学研究科 博士課程3年
医歯薬学専攻 脳神経外科学研究室

The conference was held on Nov 1-2, 2014 at the picturesque city of Hangzhou in Zhejiang Province. The conference participants included Neurosurgeons, Neurosurgical fellows and residents, Neurotrauma care specialists and paramedics from all over the province and distinguished delegates from other Chinese Provinces as well.

My presentation was titled "Brief Synopsis on Neurophysiological Monitoring: SSEP during endovascular procedures – Objectives, technique and efficacy A report of 4 cases". It was a 45 minute multimedia presentation in English with simultaneous Chinese translation. As a graduate student, it was a daunting prospect to stand and deliver in front of a crowd of people most of whom have far greater experience and expertise in Neurosurgery than myself. Neuromonitoring, we were told, is not very common practice in many hospitals in China. So, it was an interesting topic for them and I got a few questions from the floor during and after the discussion period as well. I sincerely hope that they learnt something useful from my presentation.

I would like to express my sincere gratitude to Prof. Kurisu, Dr. Yamaguchi and Hiroshima University for the opportunity.





15th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society(メルボルン)に参加して

古宇 家正 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 産科婦人科学研究室

今回、私は2014年11月8日から11日にかけてオーストラリアのメルボルンで開催された15th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2014)に参加しました。学会会場であるメルボルン・コンベンション&エキシビジョンセンターは比較的大きな会場で、そのポスターセッションにおいて、“Kinetics of CDX2 and MDR1 protein in ovarian mucinous adenocarcinoma cell lines”という演題で発表しました。卵巣癌では、初回より化学療法に抵抗性を示す症例や、再発時に抵抗性を獲得している症例をしばしば認めます。本研究では、薬剤耐性に重要な役割を果たしている Multidrug Resistance 1 (MDR1) に注目し、卵巣癌、特に予後不良と言われている粘液性腺癌において、消化器癌で MDR1 の発現を制御していると報告されている CDX2 の発現の確認や MDR1 との相関関係を検討しています。質疑応答では、細胞株に遺伝子導入して CDX2 を強制発現させる実験の質問がありましたが、なんとか答えることができたと思います。ただ、やはり英語の聞き取りは難しいと感じました。この学会では、婦人科癌の最新の進行期分類の変更や、現在進行している臨床試験、遺伝子に関わる報告など非常に興味深い内容を聞くことができました。

今回、国際学会に参加することで非常に刺激を受けました。今後の国際学会への取り組み方や重要性を確認でき、さらに研究活動をしたと思いました。このような機会を与えてくださいました諸先生方、そして学会発表支援をいただいた大学関係者の皆様に深く感謝いたします。



American Heart Association Scientific Sessions 2014(シカゴ)に参加して

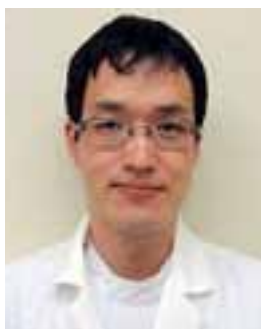
檜垣 忠直 医歯薬保健学研究科 博士課程3年 医歯薬学専攻 循環器内科学研究室

この度、American Heart Association Scientific Sessions 2014 (AHA 2014)に参加させていただき、「Central Hemodynamic Response to Oral Glucose Loading Are Blunted in Patients with Impaired Glucose Tolerance or Diabetes」の表題で発表させていただきましたのでご報告申し上げます。2014年のAHAはイリノイ州シカゴの McCormick Placeにおいて11月15～19日で開催されました。シカゴは皆さんもご存知の都市と思われませんが、摩天楼発祥の地とされる全米第3位の人口を誇る大都市です。シカゴで開催されました2014年のAHAですが、“極寒のAHA”でした。AHA期間中に、記録的な寒波がアメリカ全土を襲っており、1976年以降アメリカで“最も寒い11月”となっていました。実際、シカゴも最低気温-17℃、最高気温も氷点下の真冬日となっており、ビルの間隙風は凄まじく、夜は空気が冷たすぎるため息を吸うのも苦しいといった極寒の日々でした。

さて、その様な極寒の中開催されましたAHAですが、McCormick Placeは全米最大のコンベンションセンターで、会場内はとにかく広く、各セッションの移動も一苦勞でした。ポスター会場も、約17,000人と伝えられた多数の参加人数にも関わらず逆に閑散とした印象も受ける程、本当に広いスペースがさかかっていた。自身の発表に関してですが、ポスター会場内でポスター発表の中から5分間の口頭発表を行う場があり、ポスター発表に加え口頭発表をする機会も頂きました。拙すぎる英語力のため質疑応答で撃沈致しましたが、発表内容に興味を持っていただけ、様々な批判・意見をいただくことが出来、良い機会だったと思います。



院生の国際学会参加報告



American Heart Association Scientific Sessions 2014(シカゴ)に参加して

松村 誠也 医歯薬保健学研究所 博士課程2年 医歯薬学専攻 循環器内科学研究室

2014年11月15日から19日までアメリカ合衆国イリノイ州シカゴで行われました American Heart Association Scientific Sessions 2014に参加しました。

学会場はシカゴ中心部から2 kmほど南で、ミシガン湖沿いにあるMcCormick Placeでした。米国最大規模の施設で千葉の幕張メッセの2倍以上の立地面積を誇る広大な会場で、会場内を移動するだけでも大変でしたが、広い会場を生かした様々な企画が用意され、広さを感じさせない充実したスケジュールでした。

私の発表演題はNegative association of H558R polymorphism and ventricular fibrillation in patients with Brugada syndromeで、ポスター発表でした。ブルガダ症候群患者において、遺伝子多型の1つであるH558Rが致死的不整脈発症に対して抑制的に働いている可能性がある、との内容でした。やや専門的なセッション内容のためか、最初は閲覧する参加者もほとんどおらず、少し寂しい感じでしたが、徐々に閲覧する参加者も増えてきて、私の演題に対する感想と、質問をしていただきました。英会話の心得は全くと言っていいほどなく、外国の方からの質問を聞き取ることと、答えることは思った以上に困難でありました。

その他の発表や、シンポジウムなど大学院生として研究をしていくヒントを得ることができ、大変充実した学会参加となりました。

今回のような貴重な機会を与えて下さいました、諸先生方、大学院生海外発表支援関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今回、このような貴重な機会を与えて下さいました、諸先生方、大学院生海外発表支援関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



American Heart Association Scientific Sessions 2014(AHA2014)(シカゴ)に参加して

松本 武史 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 循環器内科学研究室

この度、American Heart Association Scientific Sessions 2014 (AHA 2014) にポスター発表ではありますが参加する事ができましたので報告致します。今回のAHAは11月15日から19日でイリノイ州シカゴでの開催でした。学会会場でありますMcCormick Placeは北米最大のコンベンションセンターと言われるだけあり、非常に広大であり、ポスター会場におきましても、自分のポスターを置く位置や、興味を持った内容のポスターを探すだけでも時間を要し大変でした。私は、11月18日(4日目)の午前にImpact of aldosterone-producing adenoma on endothelial function and Rho-associated kinase activity in patients with primary aldosteronismの演題で発表しました。原発性アルドステロン症(PA)は本態性高血圧症に比し心血管イベントが多い事が報告されているなかで、PAのサブタイプと動脈硬化の関連についての報告は少なく、タイプ別での血管内皮機能、白血球ROCK活性を検討したものでした。90分間ポスター前で聴衆の質疑に答える形式であり言語の聞き取りもさることながら伝える難しさも痛感致しました。しかし、海外学会で得られる知識、刺激は大きく、チャンスがあればまた参加したいと思います。

興味を持った内容のポスターを探すだけでも時間を要し大変でした。私は、11月18日(4日目)の午前にImpact of aldosterone-producing adenoma on endothelial function and Rho-associated kinase activity in patients with primary aldosteronismの演題で発表しました。原発性アルドステロン症(PA)は本態性高血圧症に比し心血管イベントが多い事が報告されているなかで、PAのサブタイプと動脈硬化の関連についての報告は少なく、タイプ別での血管内皮機能、白血球ROCK活性を検討したものでした。90分間ポスター前で聴衆の質疑に答える形式であり言語の聞き取りもさることながら伝える難しさも痛感致しました。しかし、海外学会で得られる知識、刺激は大きく、チャンスがあればまた参加したいと思います。



22th United European Gastroenterology Week (UEGW) (ウィーン)に参加して

二宮 悠樹 医歯薬保健学研究科 博士課程1年 医歯薬学専攻
消化器・代謝内科学研究室

私は2014年10月18日～22日にオーストリアのウィーンで開催された 22th United European Gastroenterology Week (UEGW)に参加し、ポスター発表を行いました。『Risk of bleeding after endoscopic submucosal dissection for colorectal tumors in patients with continued use of low-dose aspirin』という演題で、大腸内視鏡治療における低用量アスピリンの継続の危険性に関する発表を行いました。ポスターの前で待機していると多国籍の参加者から多くの質問を受けましたが、自分の思うことを十分に伝えることができない部分もあり、英語でのdiscussionの大切さが身にしみてわかり、今後の英語学習のモチベーションにつながりました。またその他の発表を聞くことにより、これまでにない自分のテーマの最新の知見を得ることができました。発表を英語で準備をしたことにより、同内容を速やかに英語論文化できたのも嬉しい収穫でした。学会が行われたウィーンは日本以上に治安が良く芸術にあふれた街であり、料理がすべて美味しかったのもいい思い出です。今後は今回の海外学会参加の経験を生かして日常診療・学術活動に励んでいきたいと思っております。最後になりましたが、このような発表の機会を与えていただきました消化器代謝内科の茶山一彰教授、内視鏡診療科の田中信治教授、直接のご指導をいただきました内視鏡診療科の岡志郎先生に心より御礼申し上げます。



American Society of Nephrology, Kidney Week 2014(フィラデルフィア)に参加して

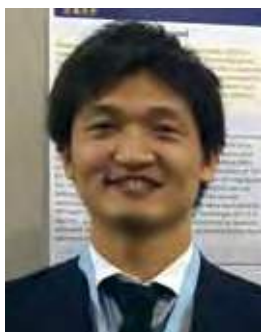
入福 泰介 医歯薬保健学研究科 博士課程2年 医歯薬学専攻 腎臓内科学研究室

この度、2014年11月11日から16日にかけてフィラデルフィアで開催されました American Society of Nephrology Kidney Week 2014 (ASN 2014)に参加して参りましたので、報告させていただきます。今回、私は“Inhibition of G9a Attenuated Renal Fibrosis and Retained Klotho Expression in UUO Mice”という演題でポスター発表を行いました。ヒストン修飾を含むEpigeneticsという概念は、近年非常に注目されている分野の一つであり、本研究はヒストンH3K9のメチル化が、腎不全の進行において重要な役割を果たしている可能性を示すことができました。海外の専門家から様々な質問や貴重な意見を伺うことができ、多くの収穫がありました。英語での返答に窮する場面もありましたが、今後の英語力向上へのモチベーションに繋げていきたいと思っております。また、自分の発表時間以外では、最先端の臨床研究、基礎研究の内容を学ぶことができ、研究活動を行っていくうえで非常に有意義なものとなりました。教授をはじめ、学会に参加していたメンバーと共に、フィラデルフィアの食事を満喫できたのも良い思い出となりました。

今回の経験を生かし、今後も国際学会で発表できるよう研鑽を積んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、このような発表の機会を与えていただきました、腎臓内科 正木崇生教授、土井盛博講師に心より感謝いたします。

院生の国際学会参加報告



AMERICAN SOCIETY OF NEPHROLOGY KIDNEY WEEK 2014(フィラデルフィア)に参加して

佐々木 健介 医歯薬学総合研究科 博士課程4年 展開医科学専攻 腎臓内科学研究室

2014年11月12日から16日まで、アメリカ合衆国ペンシルベニア州フィラデルフィアで開催されたAMERICAN SOCIETY OF NEPHROLOGY (ASN) KIDNEY WEEK 2014に参加しました。フィラデルフィアは、ワシントンに首都が設置されるまでの臨時首都として、また独立宣言を発せられた街として世界的に有名な街です。今回、私は“Inhibitory Effect of the Chromatin Histone H3-lysine 4 Methyltransferase (SET7/9) on the Tubulointerstitial Fibrosis”という演題でポスター発表を行いました。ヒストンのメチル化は、DNAの配列変化によらない遺伝子発現を制御・伝達するシステムであるエピジェネティクスの一つであり、癌や線維化など多くの病態に関与していると考えられています。本研究では、ヒストンH3K4メチル化酵素であるSET7/9が腎線維化の原因となる細胞外基質タンパク質の産生に重要な役割を果たしており、その阻害剤である既知の抗真菌薬 Sinefungin が腎不全治療薬となり得ることを示しました。多くの研究者から質問やアドバイスをいただき、貴重な経験をすることができました。また、本研究の源となった論文の著者も来てくださり、本研究を直接説明することができました。渡米した時期が本研究投稿後のmajor revise期間と重なり直前まで疲弊し切っていましたが、学会に参加することで疲れを吹き飛ばすほどの刺激とやる気をいただきました。最後になりますが、このような貴重な経験をする機会を与えてくださった諸先生方、またご支援いただきました大学院生海外発表支援の関係者の皆さまに深く感謝いたします。



The 10th Asian Congress of Oral and Maxillo Facial Radiology 2014(バリ)に参加して

Preeyaporn Srimawong 医歯薬保健学研究科 博士課程3年 医歯薬学専攻 歯科放射線学研究室

I joined “The 10th Asian Congress of Oral and Maxillo Facial Radiology (ACOMFR) 2014” which was held in Bali, Indonesia on 20~22 November 2014. The theme of this congress was “Present and Future Prospect of Diagnostic Imaging in Dento-Maxillo-Facial Radiology”. I gave an Oral presentation in the title of “Irradiation Effect on Bone Metastasis of Breast Cancer Cell”. The presentation was 12 minutes long and followed by 3 minutes for discussion. Through my presentation, I got a chance to display my research work to the researcher. The presentation gave me more confidence in presenting my work in an International level audience. I also followed the other presentations that were interesting for me.

Taking part in the congress was a very valuable experience for me as it was the opportunity to discuss with students and lecturers from other universities and other countries. I also met all participants from Thailand where was my hometown.

Outside of the conference, I went on tour to some of the interesting historic attractions in Bali including “Mother Temple” of Pura Besakih, Ulun Danu Temple, and Tanah Lot Temple. I realized that Life in Bali was always related to Tri Hita Karana which was a traditional philosophy for life on the island of Bali or a tripartite concept that include the spiritual relationship between human and God, and their environment.

In conclusion, the conference was a fantastic experience that gave me the chance to present my PhD work to an international audience and meet some collaborators from Thailand. Finally, I would like to thank you deeply to Asst.Prof. Masahiko Sawajiri and Prof. Keiji Tanimoto for giving me the opportunity to presentation in this congress and for everything you do for me.



18th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS(台北)に参加して

崔 英愛 医歯薬保健学研究科 博士課程後期3年 保健学専攻 成人看護開発学研究室

私は2015年2月5日から2月6日にかけて台北・台湾で開催された18th East Asian Forum of Nursing Scholarsに参加し、研究内容の一部「Literature review for developing patient education program in prevent aggravation of chronic virus hepatitis (中国における慢性ウイルス性肝炎の重症化予防プログラムのための文献検討)」という演題でポスター発表をさせていただきました。学会には、アジア圏

を中心とし、各国から多くの看護専門家が参加していました。私は今回が二度目の国際学会での発表でしたが(1回目は口演でした)、語学面で経験不足を感じる場面も多々ありました。学会期間中は各国から集まった多数の演題を見聞きし、意見交換をして、非常に貴重な経験ができました。特に、今回の学会により、自分の出身国(中国)の看護専門家達とお会いする機会を頂いて、将来自分の研究にも非常に役に立つと思います。

今回の海外発表では、今後さらに研究を進めていくにあたって、非常に良い刺激を受けることができました。このような機会を与えてくださいました先生方、関係者の皆様に深謝致します。

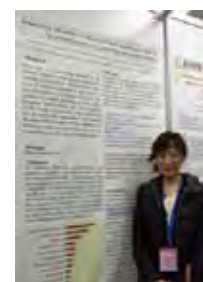


18th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS(台湾)に参加して

湯浅 美香 医歯薬保健学研究科 博士課程後期3年 保健学専攻
地域・学校看護開発学研究室

今回、平成27年(2015年)2月5日、6日の二日間にわたり、台湾の台北市で開催された18th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)に参加し、ポスターセッションにて報告をしました。タイトルは“Improving education in nursing skills & techniques required by school nurses in a junior high school environment”で、5日の

午前中に貼り出され、アジア各国の保健や医療に関する研究者や実務家などに対して研究の内容、結果を説明しました。今回は、日本の学校保健室で児童生徒に養護教諭が看護技術を使用する機会が多く、そのため、大学における養護教諭養成課程では看護技術のトレーニングが必要だと仮説設定をしました。現職の養護教諭に対して調査し分析したところ、“創傷に関する技術”、“バイタルサインの測定に関する技術”、“アセスメントに関する技術”の3つが、養成課程で重点的に指導するべき項目であると報告をしました。日本の養護教諭というシステムの説明から始まり、看護技術の養成プログラムなど各国の研究者と示唆に富んだ交流を図ることができました。今回、海外で開催される学会に参加することで、国内学会では得られない新たな研究上の視点や貴重な経験を得ることができました。今後も海外の研究者たちと意見交換ができる国際学会に参加できるよう、研究を進めていきたいと思っております。最後に、このような海外発表の機会を与えてくださった川崎裕美教授、川崎研究室の皆様、ならびに海外発表支援をいただいた医歯薬保健学研究科に感謝致します。



院生の国際学会参加報告



18th East Asian Forum of Nursing Scholars(台北)に参加して

山下 琴美 医歯薬保健学研究科 博士課程前期2年 保健学専攻
地域・学校看護開発学研究室

2015年2月5日から6日にかけて台湾の台北で開催された18th East Asian Forum of Nursing Scholars に参加し、“The influence of a sufficient social environment to play sports on physical activity and malaise”という演題でポスター発表させていただきました。子どもに運動を促すとともに心身の不調を軽減するための支援の一つとして社会資源を充実させることの重要性について発表させていただきました。対象者のリクルート方法について質問を受け、自治体や小学校と連携することによって全数調査が可能であったこと、小学校教育の一環として実施したことを説明しました。地域の保健事業では対象者本人の参加意思が重要であり、参加者を多く集める工夫は世界共通の関心であると実感しました。

開催地が台湾であったこともあり、アジア地域の参加者や若い世代の研究者との交流をすることができました。同世代の仲間が世界各国で研究者として活躍していることを知り、多くの励ましや助言をいただき、私も意識を高く持ち日々大切に過ごそうと心新たにしました。今後も継続して研究に取り組むとともに英語力の向上に努めて参ります。ご支援いただきました医歯薬保健学研究科、このような機会を与えてくださいました指導教員の川崎裕美教授、川崎研究室の皆様にご礼申し上げます。



18th East Asian Forum of Nursing Scholars(台北)に参加して

吹田 晋 医歯薬保健学研究科 博士課程後期1年 保健学専攻
地域・学校看護開発学研究室

2015年2月5日から6日まで台湾の台北で開催された18th East Asian Forum of Nursing Scholarsに参加し、ポスター発表をさせていただきました。私は“Effects of the health education program based on the theory of planned behavior for farmers' exercise behavior change”というタイトルで、農業従事者を対象とした計画的行動理論に基づく健康教育の効果について発表しました。農業従事者を対象とした研究であるため、農業が盛んに行われているタイ、インドネシア、台湾等の参加者から多くの質問があり、活発な意見交換をすることができました。それらの国々における農村地域の健康課題や健康増進対策の現状について理解を深めることができました。参加者からは、「どのように対象者をリクルートしたのか?」、「健康教育で工夫した点はどのようなことか?」等の質問に加え、研究デザインに関する意見もありました。研究に関する専門的な内容や国によって異なる地域文化について英語でディスカッションすることが難しい場面もあり、十分にディスカッションを深めることができなかつたことは今後の課題です。

最後になりましたが、このような発表の機会を与えて下さいました川崎裕美教授、そして、大学院生海外発表支援関係者の皆様にご礼申し上げます。





1st Clinical Movement Analysis World Conference(ローマ)に参加して

笹代 純平 医歯薬保健学研究科 博士課程後期3年 保健学専攻
スポーツリハビリテーション学研究室

このたび10月2日から4日の3日間の日程で、ローマ(イタリア)にあるANGELICUM CONGRESS CENTRE PONTIFICIA UNIVERSITA SAN TOMMASO D'AQUINOで開催された1st Clinical Movement Analysis World Conferenceに参加させていただきました。本学会の参加人数はおよそ300名程度で、内容はKeynote and Plenary, Oral presentation (96題), Poster presentation (199題)で構成されておりました。

した。

私は“Foot and ankle motion analysis of the support leg in soccer kicks using the Oxford foot model”というタイトルで発表させていただきました。今回で3度目の海外での発表ということで、Abstractの作成、Registration、現地までの移動や実際の現地でのコミュニケーションなど、国際学会での発表にともなう様々な手続きがよりスムーズに行えていることを実感しました。発表自体についてはポスター発表ということでスピーチの時間はありませんでしたが、ポスターの前で待機して質問のある方に対して個別に対応させていただきました。まだまだ日本語で発表する際のような内容の濃いディスカッションはできておらず、今後の課題が明確になりました。本学会での経験を生かし、英語でのプレゼンテーション能力をさらに向上させていきたいと思います。

最後に、このたびの海外発表にあたりご指導、ご支援いただいた諸先生方、本学関係者の方々に深謝いたします。



1st Clinical Movement Analysis World Conference(ローマ)に参加して

浅枝 諒 医歯薬保健学研究科 博士課程後期1年 保健学専攻 運動器機能医科学研究室

2014年10月1日から4日にかけてローマ(イタリア)で開催された1st Clinical Movement Analysis World Conferenceに参加し、「Gait analysis after medial patellofemoral ligament reconstruction」という演題でポスター発表を行いました。この学会は15th Annual Meeting of the Italian Society of Clinical Movement Analysis (SIAMOC) と、23rd Annual Meeting of the European Society for Movement Analysis in Adults and Childrenの2つの学術大会を合併したものであり、動作解析の臨床的、技術的側面に着目した学会です。

私は膝関節疾患の動作解析をテーマとした研究に取り組んでおり、今回は膝蓋骨脱臼に対する観血的治療前後の歩行時膝関節運動の継時的変化について発表いたしました。膝蓋骨脱臼や歩行解析をテーマにした今回の発表は、整形外科、リハビリテーション、エンジニアなど数多くの先生に関心をもつていただける内容です。今回は特にエンジニアの先生方から多くのご指摘、ご助言をいただきました。国内学会では主に臨床的側面からのご指摘をいただくことが多く、今回の学会参加では研究のデザイン、使用機器や解析の精度など、研究や論文の基礎となることを再認識することができました。また研究内容を英語で説明する能力が不足していると実感しました。今回の学会参加から学んだことを生かし、今後は口述発表や海外留学など自らが積極的に国際舞台に挑んでいければと感じております。

最後になりましたが、学会参加にあたりご指導していただいた先生方および研究室の皆様、支援して下さる医歯薬保健学研究科に深く感謝いたします。

院生の国際学会参加報告



The 56th American Society of Hematology (ASH) Annual Meeting (サンフランシスコ)に参加して

中田 雄一郎 医歯薬保健学研究科 博士課程4年 医歯薬学専攻
原爆放射線医科学研究所 疾患モデル解析研究分野

私は今回、平成26年12月6日から9日にかけてカリフォルニア州サンフランシスコで行われた第56回American Society of Hematology (ASH) Annual Meetingに参加し、「Generation and Analysis of a Novel Mouse Model for Chronic Myelomonocytic Leukemia (CMML) with Acquired Expression of c-CBL^{Q367P}」という演題で発表しました。内容としては、がん抑制遺伝子c-CBLの後天的変異は造血幹細胞の恒常的な活性化を誘導し、慢性骨髄単球性白血病の発症に関与するというものでした。

私にとっては初めての海外での学会発表であり、きちんと質疑応答できるか不安でした。いざポスターセッションが始まると、何人か私の研究に興味を持った先生に質問や意見をいただくことができました。満足な回答ができたとは思いませんが、外国の研究者たちと片言の英語ながらも討論ができたことは私にとって貴重な経験となりました。また、海外の学会に参加できたという充実感も得ることができました。

最後になりましたが、このような機会を与えていただきました当研究室の本田浩章教授、上田健助教、また、アメリカ滞在中にサポートをいただいた広島大学原医研がん分子病態研究分野の敬愛する松井啓隆准教授に心より感謝申し上げます。

最近の新聞記事から

- 乳がん患者ら交流会
10月4日中区で（病院）（読売 10 / 1）
-
- 災害時医療体験から学ぶ 支援の改善点など議論
広島大霞キャンパスで保健学シンポ（医歯薬保）（中国 10 / 12）
-
- ウイルス性肝炎で講座
中区 医師ら治療法など紹介（病院）（中国 10 / 12）
-
- 小児がん治療
広島大病院が家族宿泊施設
隣接地に建設 負担軽減へ（病院）（中国 10 / 18）
-
- 「平和発信」が必修科目に 意識調査や被爆体験記データ化
広島大 まずは歯学部（歯学部）（中国 10 / 20）
-
- 医療対談 てんかん—適切な治療で前向きに生きよう
広島大病院てんかんセンター長 飯田幸治さん
センター開設 難治患者に光 投薬と手術 進歩著しく（病院）（中国 10 / 22）
-
- 小児がん 治療にタッグ
自宅近くの病院と15カ所の拠点病院
テレビ会議で情報共有（病院）（朝日 10 / 24）
-
- 「再生医療で患者を救う」日本再生医療学会公開フォーラム
「足場」作る方法 軟骨細胞を移植（医歯薬保）（読売 10 / 27）
-
- W杯勝利へ熱血サポート
アンパティサッカー代表スタッフに坂光さん
広島大病院の理学療法士「魅力を広めたい」（病院）（中国 10 / 28）
-
- カープバッジで乳がん患者支援
広島大医師ら活動推進（病院）（中国 10 / 28）
-
- 梵選手 病児に勝利約束
広島大病院 応援バナーを贈る（病院）（中国 10 / 29）
-
- 病気と闘う君へ勇気を
広島大病院小児病棟へ 選手が横断幕（病院）（読売 10 / 29）
-
- 世界糖尿病デー庄原でイベント
来月14日（病院）（毎日 10 / 30）

最近の新聞記事から

びんごの医療

広島大副学長 平川勝洋氏

限られた人員集約化も 医師派遣の今後

地方の医師が働きやすい環境づくりが必要 (病院)

(中国 10 / 31)

進路選択セミナーへ

広島で臨床工学技士体験会

装置触れ「志強まる」(病院)

(中国 11 / 2)

中国文化賞 受賞者の業績と横顔

難治性呼吸器疾患の治療に道 河野修興氏

患者のため信念を貫く

放線菌や乳酸菌の研究を推進 杉山政則氏

科学技術で「常識覆す」(医歯薬保)

(中国 11 / 3)

専門医が診る

広島大病院眼科 木内良明教授

緑内障 器具埋める新手術広がる (病院)

(中国 11 / 5)

歯科の事故防げ!

ヒヤリ事例共有 ■ 第三者機関が評価

小規模医院支援へ連携 (病院)

(日本経済 11 / 6)

磁力での軟骨再生前進

広島大大学院越智教授実験 厚労省、臨床研究承認 (医歯薬保)

(中国 11 / 11)

てんかんの症状など解説

中区で市民フォーラム (病院)

(中国 11 / 11)

エボラ熱 正しく理解混乱防ごう

せきやくしゃみで広がらない

症状ない感染者からうつらず (病院)

(中国 11 / 12)

早老症患者からiPS

広島大のグループ作製成功

新薬開発や再生医療活用 (医歯薬保)

(中国 11 / 13)

早老症のiPS細胞作製

広島大チーム 治療薬開発に期待 (医歯薬保)

(読売 11 / 13)

早老症患者からiPS細胞

広島大など作製成功 (医歯薬保)

(毎日 11 / 13)

最近の新聞記事から

- 子どもの難病
相談支援、模索する自治体（病院）（読売 11 / 14）
-
- 早老症のiPS細胞「若返り」
「薬開発に期待」 広大など研究（医歯薬保）（朝日 11 / 15）
-
- 私の学び
患者の視点を見失わず
広島大病院高度救命救急センター長 谷川功一さん（病院）（中国 11 / 17）
-
- 被災地での活動検証
DMAT（災害派遣医療チーム）、成果や課題報告（病院）（中国 11 / 20）
-
- 市民公開講座 進歩しつづけるウイルス性肝炎治療
C型肝炎は完治も可能
～放置しないで早めに受診、肝がん予防へ～
講演1 B型・C型肝炎ってどんな病気？
放置すると肝がんのおそれ
広島大学大学院医歯薬保健学研究院教授 茶山一彰さん（医歯薬保）
講演2 ここまで来たB型・C型肝炎最新の治療
一肝がん撲滅へ、目覚ましい進歩～
C型肝炎治療における進歩
広島大病院消化器・代謝内科講師 川上由育さん（病院）（中国 11 / 22）
-
- 専門医が診る 読者からの質問編「緑内障」
広島大病院眼科 木内良明教授
点眼治療 影響が心配 → 過度の眼圧低下はない
妊娠・出産時はどう対応したら → 進行次第で治療中断も
白内障も併発 手術の時期は → タイプ・症状よく相談
レーシック手術歴 問題になるの → 発見や効果判定難しく（病院）（中国 11 / 26）
-
- 病院長に平川氏 広島大（病院）（中国 11 / 26）
-
- 悪性リンパ腫新薬など解説
30日中区（病院）（中国 11 / 27）
-
- 院長に平川氏
広島大学病院（病院）（読売 11 / 27）
-
- 放射線災害対応考える
広島で国際フォーラム 福島事故事例など報告（医歯薬保）（中国 11 / 28）

最近の新聞記事から

- 広島大新学長に越智氏
「世界的な研究大学に」
会見で決意 留学を後押しへ (医歯薬保) (中国 12 / 6)
-
- 「国際化進めたい」広島大 次期学長の越智氏 (医歯薬保) (読売 12 / 6)
-
- 広島大の新学長 越智教授を選出 (医歯薬保) (毎日 12 / 6)
-
- 新学長に越智氏 広島大 (医歯薬保) (日本経済 12 / 6)
-
- 低線量CTで肺がん検診
7日から 三次市、広島大と連携 (医歯薬保) (中国 12 / 30)
-
- 病院の実力 ※広島編④
広島大学病院心不全センター 木原康樹センター長に聞く
生活習慣まで包括ケア 心臓リハビリ
「運動療法や生活習慣、食生活の改善など包括的なケアが大切」(病院) (読売 1 / 11)
-
- 稲葉所長を再任 (原医研) (中国 1 / 23)
-
- 公益社団法人広島県診療放射線技師会 創立65周年記念市民公開講座
「知っていますか? 肺がんの予防と早期発見」
「低線量CTによる肺がん検診のすすめ」～肺がん死亡率の低下を目指して～
「CT検査でどのくらい被ばくするの?」～診療放射線技師の取り組み～ (病院) (中国 1 / 24)
-
- 「職種超えた支援必要」
広大シンポ医師ら講演 災害時の連携探る (病院) (毎日 1 / 26)
-
- 軍用食器など発掘100点展示 広島大医学資料館 (医学部) (中国 2 / 1)
-
- 広島大病院に30万円を寄付 米国人ライターら (病院) (中国 2 / 3)
-
- 軟骨修復で独自手術
磁力で幹細胞誘導 広島大病院 (病院) (中国 2 / 7)
-
- 磁石で軟骨補う細胞運ぶ
切開より早期回復期待 広島大病院で手術 (病院) (読売 2 / 7)
-
- 磁石で細胞集め膝手術 広島大 軟骨修復 (病院) (毎日 2 / 7)
-
- 軟骨修復 磁石でピタリ
幹細胞に鉄→体外から患部に 広島大臨床研究 (病院) (朝日 2 / 7)

最近の新聞記事から

- 幹細胞、磁石で集め治療
広島大、欠損軟骨を修復 患者への負担少なく (病院) (日経 2 / 7)
-
- 広島発救急システム (病院) (中国 2 / 13)
-
- がん医療最先端施設紹介
放射線治療センター今秋開業 公開シンポに900人参加 (病院) (中国 2 / 16)
-
- がんシンポ「自分守る早期発見」
治療センター今秋開業控え アグネスさん講演 (病院) (毎日 2 / 16)
-
- 移植医療考える 22日福山で講座 (病院) (中国 2 / 18)
-
- 今だから知りたい「C型肝炎」最前線
C型肝炎の治療法が増えています。
治療をためらっていた方ももう一度、お医者さんへ相談を。(病院) (朝日 2 / 21)
-
- 脳死男性の臓器を移植 広島大病院 (病院) (中国 2 / 22)
-
- 地下鉄サリン 「目に不調」慢性化6割
広島大調査「手足しびれ」2割 (医歯薬保) (毎日 2 / 25)
-
- 小児がん家族の宿泊可 広島大病院が専用施設 (病院) (読売 2 / 26)
-
- 広島大学医学部創立70周年 平和都市広島で医療人を育成 (医学部) (産経 2 / 27)
-
- 肺がん予防 医師が解説 (病院) (中国 3 / 1)
-
- 人工内耳 広がる音世界
広島大病院に「センター」設置1年
サポート充実 言葉発達促すツールにも (病院) (中国 3 / 11)
-
- 人工内耳治療や仕組みなど解説 (病院) (中国 3 / 15)
-
- 障害時の支援 医療から学ぶ 中区 (病院) (中国 3 / 15)
-
- 地下鉄サリン20年後遺症今なお
被害者の6割 目の不調訴え
広島大院教授ら調査 慢性化の可能性 (医歯薬保) (中国 3 / 21)
-
- 高コレステロール治療薬「スタチン」
血栓性脳梗塞の再発予防に効果
松本教授 (広島大大学院) 発表へ (医歯薬保) (中国 3 / 25)

学会等開催記録

学会等開催記録 平成26年10月1日～平成27年3月31日

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成26年 10月4日 (土)	第1回疾病管理ナース育成セミナー	保健学科棟2階 203セミナー室	テーマ「脳卒中の治療と患者教育」	医歯薬保健学研究院 成人看護開発学 森山美知子教授
平成26年 10月4日 (土) ～ 10月5日 (日)	第64回日本歯科理工学会 学術講演会	アステールプラザ	特別講演 「Evidence-Based Dentistryの確立に向けて歯科 理工学に期待すること」 栗原 英見 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院歯周病態 学 教授) 「再生医療に果たす工学の役割 -ヒト多能性幹細胞の培養において求められるマテリアル-」 古江-楠田 美保 先生 (独立行政法人医薬基盤研究所 難病・疾患資 源研究部 ヒト幹細胞応用開発室 研究リー ダー)	医歯薬保健学研究院 生体材料科学研究室
平成26年 10月16日 (木)	第18回 広島皮膚アレルギー ワークショップ	ホテルチューリッ ヒ東方2001	特別講演「開業医の視点で語るアトピー性皮膚炎 の治療」 講師 川端 康浩 先生 (川端皮膚科クリニック 院長) 症例ディスカッション 「教訓的であったアトピー性皮膚炎の3例」 入福 令子 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院皮 膚科学)	医歯薬保健学研究院 皮膚科学
平成26年 10月16日 (木)	第159回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「造血幹細胞制御因子Gemininの発現と機能を操 作する新技術の開発」 講師：大野 芳典 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所) 「7q-AML/MDSの責任遺伝子候補Samd9Lのマウ スモデルを用いた解析」 講師：長町 安希子 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所)	霞地区運営支援部 総務グループ
平成26年 10月21日 (火)	第21回 分子細胞情報学セミナー	総合研究棟7F 701号室 共同セミナー室	テーマ：「報酬・忌避学習と意思決定における大 脳基底核神経回路の制御機構」 講師：疋田 貴俊 先生 (京都大学大学院医学研究科メディカル イノベーションセンター 特准教授)	医歯薬保健学研究院 分子細胞情報学
平成26年 11月9日 (日)	第20回 広島県作業療法学会	広仁会館 大・中 会議室	テーマ：「超高齢社会の今、作業療法に求められ ている専門性とは」	医歯薬保健学研究院 老年・地域作業機能制御科 科学研究室
平成26年 11月16日 (日)	第19回広島県呼吸ケア看 護研究会	第5講義室	テーマ「喘息について」	医歯薬保健学研究院 成人看護開発学 森山美知子教授
平成26年 11月20日 (木)	第160回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「当科における食道癌の集学的治療：術前化学放 射線療法の治療成績」 講師：浜井 洋一 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所) 「放射線損傷DNA修復因子NBS 1による紫外線損 傷応答とモデルマウスの作製」 講師：柳原 啓見 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所)	霞地区運営支援部 総務グループ
平成26年 11月20日 (木) ～ 11月21日 (金)	The 11th JSH Single Topic Conference	ホテルグランヴィ ア広島	テーマ：「Hepatitis B - Recent Progress in Basic and Clinical Research -」	医歯薬保健学研究院 消化器・代謝内科学 (肝臓研究室)
平成26年 11月29日 (土) ～ 11月30日 (日)	第102回日本消化器病学会 中国支部例会	広島国際会議場	・特別講演「消化器領域におけるIgG関連疾患」 ・専門医セミナー(2題) ・シンポジウム「生活習慣病と消化器疾患」(11題) ・消化器病学会 中国支部研修医奨励賞(19題) ・消化器病学会 中国支部専修医奨励賞(18題) ・一般演題(33題) ・第74回市民公開講座「おなかの健康と菌のかか わり」(3題)	広島大学病院 総合内科・総合診療科 田妻 進教授

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成26年 11月30日 (日)	第7回広島県糖尿病・腎不全療養指導看護研究会	第1講義室	テーマ「フットケアブラッシュアップ研修：困難事例への対応」	医歯薬保健学研究院 成人看護開発学 森山美知子教授
平成26年 12月6日 (土)	第97回日本神経学会 中国・四国地方会	広島国際会議場	一般口演70題、教育セミナー2題、ランチョンセミナー3題	医歯薬保健学研究院 脳神経内科学
平成26年 12月14日 (日)	第11回広島脳卒中市民シンポジウム	広島国際会議場	テーマ：高次機能障害 第一部 講演 基調講演：「高次機能障害とは」 村田 芳夫 先生 (広島県立障害者リハビリテーションセンター 高次機能センター長(兼)診療部神経内科主任医長) 特別講演：「高次機能障害を知る」 森 悦朗 先生 (東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学 教授) 第二部 パネルディスカッション 「簡単な嚥下障害の作り方」 益田 慎 先生 (県立広島病院 小児感覚器科) 「口から食べるために必要なこととは」 吉田 光由 先生 (広島市立リハビリテーション病院 歯科部長) 「嚥下障害のリハビリ」 渡邊 光子 先生 (西広島リハビリテーション病院リハビリマネージャー・言語聴覚士) 「日常生活で気を付けること」 平山 順子 先生 (広島大学病院看護部 摂食・嚥下障害看護認定看護師)	医歯薬保健学研究院 脳神経内科学 松本昌泰教授
平成26年 12月8日 (土)	第63回広島病理集談会	広島大学医学部 基礎・社会医学研究棟 セミナー室2	8例の手術・生検材料の病理診断に関する検討会	世話人： 医歯薬保健学研究院 病理学研究室 武島幸男教授
平成26年 12月8日 (土)	第2回疾病管理ナース育成セミナー	保健学科棟2階 203セミナー室	テーマ「虚血性心疾患・心不全の治療と患者教育」	医歯薬保健学研究院 成人看護開発学 森山美知子教授
平成26年 12月15日 (月) } 12月17日 (水)	第32回染色体ワークショップ、第13回核ダイナミクス研究会	安芸グランドホテル	特別講演「細胞核の不思議：出芽酵母から見えてきたもの」 土屋 英子 先生 (広島大学・先端物質)	原爆放射線医学研究所 細胞修復制御研究分野 田代 聡教授、 熊本大学発生医学研究所 斉藤典子准教授
平成26年 12月17日 (水) } 12月20日 (土)	The 4D Nucleome 2014	安芸グランドホテル	Keynote lecture A Panegyric for the Nucleus: Reflections and Projections. Thoru Pederson (University of Massachusetts Medical School, U.S.A.)	原爆放射線医学研究所 細胞修復制御研究分野 田代 聡教授、 クロマチン動態数理研究拠点 (RcMcD) 楯 真一教授
平成26年 12月18日 (木)	第22回 分子細胞情報学セミナー	広島大学医学部第 2講義室	「ゲノムから骨関節疾患へー 単一遺伝子遺伝病と多因子遺伝病の統合解析」 講師：池川 志郎 先生 (理化学研究所 統合生命医科学研究センター 骨関節疾患研究チーム チームリーダー)	医歯薬保健学研究院 分子細胞情報学
平成26年 12月18日 (木)	第161回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「Perrault症候群の原因遺伝子C10orf2の変異によるmtDNA維持機構の障害」 講師：松田 由喜子 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所)	震地区運営支援部 総務グループ
平成27年 1月8日 (木)	第162回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「放射線で誘発される染色体損傷解析、主に逆位の解析」 講師：加藤 宝光 先生 (コロラド州立大学環境放射線保健科学学部 放射線生物・腫瘍学科 助教)	原爆放射線医学研究所 がん分子病態研究分野 /震地区運営支援部 総務グループ

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成27年 1月15日 (木)	第163回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「食道癌外科治療における侵襲反応制御と低侵襲手術」 講師：檜原 淳 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所) 「低線量(率)放射線が着床前期胚発生過程に与える影響」 講師：清水 なつみ 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所)	霞地区運営支援部 総務グループ
平成27年 1月24日 (土)	第61回広島麻酔医学会総会	広島アンデルセン	ランチョンセミナー 「麻酔科医としての集中治療への関わり」 講師：藤野 裕士 先生 (大阪大学大学院医学系研究科教授) 教育講演 「データを診るために知っておきたい生物統計」 講師：飛田 英佑 先生 (広島大学病院 臨床研究部 講師) 特別講演 「小胞体ストレス応答による生体制御と疾患」 講師：今泉 和則 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院教授) 一般演題	医歯薬保健学研究院 麻酔蘇生学
平成27年 2月7日 (土)	第3回疾病管理ナース育成セミナー	保健学科棟2階 203セミナー室	テーマ「減酒支援の理論と実践－ブリーフインターベンションとHAPPYプログラム－」	医歯薬保健学研究院 成人看護開発学 森山美知子教授
平成27年 2月13日 (金)	第23回 分子細胞情報学セミナー	総合研究棟7F 701号室 共同セミナー室	「小胞体ストレス応答とゴルジ体ストレス応答」 講師：吉田 秀郎 先生 (兵庫県立大学大学院生命理学研究科 生体物質化学II講座 教授)	医歯薬保健学研究院 分子細胞情報学
平成27年 2月19日 (木)	第164回原医研セミナー	総合研究棟7階 701セミナー室	「造影超音波検査を用いた乳癌術前化学療法の効果判定への応用」 講師：舛本 法生 先生 (広島大学病院) 「Effects of low dose gamma irradiation on primary human endothelial cells」 講師：Elena K. Zaharieva 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所)	霞地区運営支援部 総務グループ
平成27年 2月21日 (土)	第22回難病医療従事者研修会	広仁会館	10周年記 テーマ：難病医療の展望 基調講演「難病対策センター(ひろしま)10年の軌跡」 宮地 隆史 先生 (国立病院機構柳井医療センター副院長・難病対策センター事務局アドバイザー) 特別講演1「筋ジストロフィーに学ぶ」 小牧 宏文 先生 (国立精神・神経医療研究センター病院筋疾患センター長・小児神経科医長) 特別講演2「福岡県重症神経難病ネットワーク16年のあゆみとこれからの期待」 吉良 潤一 先生 (九州大学大学院医学研究院 神経内科学教授)	CIDC難病対策センター (センター長 松本昌泰教授)
平成27年 2月28日 (土)	第20回中皮腫パネル	順天堂大学 医学部	9題の中皮腫症例の臨床・病理学検討会 (後援：労働者健康福祉機構)	世話人： 医歯薬保健学研究院 病理学研究室 武島幸男教授
平成27年 3月2日 (月) 3月3日 (火)	広島大学原爆放射線医学研究所 第5回国際シンポジウム	広仁会館	-Biological Effects of Low Dose Radiation- 基調講演 「DDREF: Contributions from Cellular Radiation Responses」 Joel S. Bedford 先生 (コロラド州立大学 教授) Session 1：低線量放射線影響 小野 哲也 先生 (環境科学技術研究所 理事長)	霞地区運営支援部 総務グループ

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成27年 3月2日 (月) } 3月3日 (火)	広島大学原爆放射線医科学研究所 第5回国際シンポジウム	広仁会館	Session 2 : 幹細胞老化と放射線発がん 李 桃生 先生 (長崎大学原爆後障害医療研究所 教授) 瀧原 義宏 先生 (広島大学原爆放射線医科学研究所 教授) 島田 義也 先生 (放射線医学総合研究所 プログラムリーダー) 特別講演 「Radiobiology for the Japanese Radiologist」 Eric J. Hall 先生 (コロンビア大学メディカルセンター名誉教授)	霞地区運営支援部 総務グループ
平成27年 3月5日 (木)	第19回 広島皮膚アレルギーワークショップ	ホテルチューリップ ヒ東方2001	特別講演「アレルギー疾患治療における今後の展望：免疫療法の実際と課題」 講師 下条 直樹 先生 (千葉大学大学院医学研究院 小児病態学 教授) 症例ディスカッション 「小児の慢性蕁麻疹の1例」 入福 令子 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院皮膚科学) 「乳児の蕁麻疹の2例」 鼻岡 佳子 先生 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院皮膚科学)	医歯薬保健学研究院 皮膚科学
平成27年 3月8日 (日)	第8回広島県糖尿病・腎不全療養指導看護研究会	保健学科棟203室	テーマ「腹膜透析看護－糖尿病を基礎疾患として－」	医歯薬保健学研究院 成人看護開発学 森山美知子教授
平成27年 3月26日 (木) } 3月29日 (日)	第40回日本脳卒中学会総会	リーガロイヤルホテル広島 NTTクレドホール メルパルク広島 広島グリーンアリーナ	メインテーマ「Message from Hiroshima for Ending Stroke Epidemic」 広島宣言セレモニー 合同シンポジウム4テーマ、 シンポジウム13テーマ、 招待講演8題、 特別企画4テーマ 教育講演33テーマ 一般演題・一般ポスター 1515題 コメディカルセッション 市民公開講座「脳卒中は怖くない～今あなたにできること～」	医歯薬保健学研究院 脳神経内科学
平成27年 3月27日 (金) } 3月29日 (日)	日本医工学治療学会第31回学術大会	広島国際会議場	テーマ：「医工学治療の現状と近未来」	医歯薬保健学研究院 外科学 末田泰二郎教授
平成27年 3月28日 (土)	第108回広島がん治療研究会	広島大学医学部基礎・社会医学棟セミナー室2	一般演題 24題 特別講演 シンポジウム「癌治療支援の最前線」 1) 『肺がん術前の栄養療法(BCAA)を併用した包括的呼吸リハビリテーション』 山下 芳典 先生 (国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター 臨床研究部 & 呼吸器外科) 2) 『口腔細菌学的評価に基づいた癌治療中合併症の予防』 西 裕美 先生 (広島大学病院 口腔総合診療科) 3) 『がん治療期の緩和ケア』 大下 恭子 先生 (広島大学病院 手術部 緩和ケアチーム) 4) 『がん化学療法における深在性真菌感染症対策』 大島 久美 先生 (広島大学原爆放射線医科学研究所放射線災害医療研究センター血液・腫瘍内科研究分野)	広島がん治療研究会

学会等開催記録

開催日	件名	開催場所	内容	事務局
平成27年 3月28日 (土)	第108回広島がん治療研究会	広島大学医学部基礎・社会医学棟セミナー室2	5) 『間質性肺疾患ががん治療に及ぼすインパクト』 服部 登 先生 (広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 分子内科学)	広島がん治療研究会
平成27年 3月30日 (月)	第165回原医研セミナー	総合研究棟7階701セミナー室	「ドナーとレシピエントの性別不一致が同種造血幹細胞移植の移植成績に与える影響」 講師：大島 久美 先生 (広島大学原爆放射線医学研究所) 「同所性マウス左片肺移植を用いた肺移植後閉塞性細気管支炎発症機序の解明」 講師：三村 剛史 先生 (広島大学病院)	霞地区運営支援部 総務グループ

人事異動

人事異動 平成26年10月2日～平成27年4月1日

発令 月日	異動 内容	氏 名	異動前所属	異動前 職 名	異動後所属・部門等	異動後 職 名
10.31	退職	山上 卓士	大学院医歯薬保健学研究院	准教授		
11.1	採用	永安 慎太郎			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (健康増進歯学)	助教
12.31	退職	Hayes Clair Nelson	大学院医歯薬保健学研究院	特任准教授		
12.31	退職	秋田 智之	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	浦岡 直礼	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	大野 晴也	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	小田 康祐	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	加賀谷 美幸	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	加藤 承彦	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	唐川 修平	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	白藤 俊彦	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	杉本 洋輔	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	高井 知子	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	武田 正明	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	田中 暁生	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	土肥 栄祐	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	土肥 由裕	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	Batmunkh Bumdelger	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	平賀 伸彦	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	渡谷 祐介	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	青木 彩子	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	横山 雄太	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
12.31	退職	村井 博	病院	講師		
12.31	退職	岩本 博志	病院	助教		
12.31	退職	郷力 昭宏	病院	助教		
12.31	退職	吉松 梨香	病院	助教		
1.1	配置換	正路 晃一	大学院医歯薬保健学研究院	助教	病院 泌尿・生殖器診療科 (泌尿器科)	助教
1.1	昇任	柴 秀樹	大学院医歯薬保健学研究院	准教授	大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (歯髄生物学)	教授
1.1	採用	Hayes Clair Nelson			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (消化器・代謝内科学)	准教授
1.1	採用	秋田 智之			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (疫学・疾病制御学)	助教
1.1	採用	浦岡 直礼			大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 (分子病理学)	助教
1.1	採用	大野 晴也			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (分子内科学)	助教
1.1	採用	小田 康祐			大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 (ウイルス学)	助教
1.1	採用	加賀谷 美幸			大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 (解剖学及び発生生物学)	助教
1.1	採用	加藤 承彦			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (公衆衛生学)	助教
1.1	採用	唐川 修平			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (小児科学)	助教
1.1	採用	白藤 俊彦			大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 (神経薬理学)	助教
1.1	採用	杉本 洋輔			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (視覚病態学)	助教
1.1	採用	高井 知子			大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 (分子細胞情報学)	助教
1.1	採用	武田 正明			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (脳神経外科学)	助教
1.1	採用	田中 暁生			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (皮膚科学)	助教
1.1	採用	土肥 栄祐			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (脳神経内科学)	助教
1.1	採用	土肥 由裕			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (循環器内科学)	助教
1.1	採用	Batmunkh Bumdelger			大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 (心血管生理医学)	助教
1.1	採用	平賀 伸彦			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (消化器・代謝内科学)	助教
1.1	採用	渡谷 祐介			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (外科学)	助教
1.1	採用	青木 彩子			大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 (医療薬理学)	助教
1.1	採用	横山 雄太			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (臨床薬物治療学)	助教
1.1	採用	笠原 千賀子			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (助産・母性看護開発学)	特任助教
1.1	採用	岩本 博志			病院 呼吸器診療科 (呼吸器内科)	講師
1.1	採用	本田 有紀子			病院 放射線部	助教
1.31	退職	加藤 承彦	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
1.31	退職	藤井 理史	病院	講師		
2.1	昇任	阿部 泰彦	病院	講師	大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (先端歯科補綴学)	准教授
2.1	採用	林 哲太郎			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (腎泌尿器科学)	助教
2.1	採用	藤原 友紀			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (健康情報学)	特任助教
2.28	退職	岩本 明子	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
2.28	退職	西村 瑠美	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
2.28	退職	Khung Rathvisal	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		

人事異動

発令 月日	異動 内容	氏 名	異動前所属	異動前 職 名	異動後所属・部門等	異動後 職 名
2.28	退職	松井 啓隆	原爆放射線医科学研究所	准教授		
3.1	採用	安藤 俊範			大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門（口腔顎顔面病理病態学）	助教
3.1	採用	西村 瑠美			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門（口腔発達機能学）	助教
3.1	配置換	宮川 剛史	病院	歯科診療医	病院 総合医療研究推進センター	助教
3.31	定年退職	原 久美子	大学院医歯薬保健学研究院	講師		
3.31	定年退職	内藤 朱実	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	谷川 攻一	大学院医歯薬保健学研究院	教授		
3.31	退職	楠元 芳典	大学院医歯薬保健学研究院	准教授		
3.31	退職	下瀬 省二	大学院医歯薬保健学研究院	准教授		
3.31	退職	富永 篤	大学院医歯薬保健学研究院	准教授		
3.31	退職	木村 康浩	大学院医歯薬保健学研究院	准教授		
3.31	退職	高瀬 美由紀	大学院医歯薬保健学研究院	准教授		
3.31	退職	片山 恵子	大学院医歯薬保健学研究院	講師		
3.31	退職	川和田 晶子	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	土肥 栄祐	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	服部 稔	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	福嶋 俊明	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	大林 真理子	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	鳥田 歩	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	白倉 麻耶	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	藤本 伸一	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	松本 裕子	大学院医歯薬保健学研究院	助教		
3.31	退職	脇谷 滋之	大学院医歯薬保健学研究院	寄附講座教授		
3.31	退職	小澤 修一	大学院医歯薬保健学研究院	寄附講座教授		
3.31	退職	恵木 浩之	大学院医歯薬保健学研究院	特任講師		
3.31	退職	黒坂 哲	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	土岐 茂	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	北山 和子	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	西川 里織	大学院医歯薬保健学研究院	特任助教		
3.31	退職	土井 歙子	大学院医歯薬保健学研究院	寄附講座助教		
3.31	定年退職	沼本 通孝	原爆放射線医科学研究所	准教授		
3.31	定年退職	大谷 敬子	原爆放射線医科学研究所	助教		
3.31	退職	安永 晋一郎	原爆放射線医科学研究所	准教授		
3.31	退職	佐藤 裕哉	原爆放射線医科学研究所	助教		
3.31	退職	見前 隆洋	原爆放射線医科学研究所	助教		
3.31	退職	松田 由喜子	原爆放射線医科学研究所	特任助教		
3.31	定年退職	小川 哲次	病院	教授		
3.31	定年退職	木平 健治	病院薬剤部	教授		
3.31	退職	梶原 充	病院	講師		
3.31	退職	佐々木 民人	病院	講師		
3.31	退職	伊達 秀二	病院放射線部	講師		
3.31	退職	石田 隆史	病院未来医療センター	講師		
3.31	退職	飯田 慎	病院	助教		
3.31	退職	石川 正和	病院	助教		
3.31	退職	稲東 有希子	病院	助教		
3.31	退職	高崎 泰一	病院	助教		
3.31	退職	高沢 皓文	病院	助教		
3.31	退職	土井 俊樹	病院	助教		
3.31	退職	中佐 智幸	病院	助教		
3.31	退職	信實 孝洋	病院	助教		
3.31	退職	原木 俊明	病院	助教		
3.31	退職	兵庫 秀幸	病院	助教		
3.31	退職	平郡 真記子	病院	助教		
3.31	退職	淵上 学	病院	助教		
3.31	退職	宮里 麻鈴	病院	助教		
3.31	退職	本川 雅英	病院	助教		
3.31	退職	宇根 一暢	病院高度救命救急センター	助教		
3.31	退職	吉田 成人	病院内視鏡診療科	助教		
3.31	退職	亀井 直輔	病院未来医療センター	助教		
4.1	配置換	安達 伸生	病院	准教授	大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門（整形外科）	准教授

人事異動

発令 月日	異動 内容	氏名	異動前所属	異動前 職名	異動後所属・部門等	異動後 職名
4.1	配置換	山崎 琢磨	病院	助教	大学院医歯薬保健学研究院 人工関節・生体材料学講座	寄附講座准教授
4.1	昇任	亭島 淳	大学院医歯薬保健学研究院	講師	大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (腎泌尿器科学)	准教授
4.1	昇任	杉本 幸子	大学院医歯薬保健学研究院	講師	大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (薬用植物園)	准教授
4.1	昇任	細井 徹	大学院医歯薬保健学研究院	講師	大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (治療薬効学)	准教授
4.1	採用	Maretaningtias Dwi A			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (国際歯科医学連携開発学)	講師
4.1	採用	石川 正和			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (整形外科)	助教
4.1	採用	木下 康之			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (脳神経外科学)	助教
4.1	採用	竹田 育子			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (脳神経内科学)	助教
4.1	採用	谷 千尋			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (放射線診断学)	助教
4.1	採用	土橋 酉紀			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (公衆衛生学)	助教
4.1	採用	中島 祐子			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (整形外科)	助教
4.1	採用	服部 稔			大学院医歯薬保健学研究院 医学部附属医学教育センター	助教
4.1	採用	原木 俊明			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (麻酔蘇生学)	助教
4.1	採用	淵上 学			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (精神神経医学)	助教
4.1	採用	Makokha Grace Naswa			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (消化器・代謝内科学)	助教
4.1	採用	宮里 麻鈴			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学)	助教
4.1	採用	村田 和大			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (法医学)	助教
4.1	採用	山本屋 武			大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 (医化学)	助教
4.1	採用	深田 恵里			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (公衆口腔保健学)	助教
4.1	採用	山下 寛			大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 (生体分子機能学)	助教
4.1	採用	猪村 剛史			大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 (生体環境適応科学)	助教
4.1	採用	西尾 禎治			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (放射線腫瘍学)	特任教授
4.1	採用	祢津 智久			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (脳神経内科学)	特任助教
4.1	採用	藤田 幸司			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (公衆衛生学)	特任助教
4.1	採用	森山 知美			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (健康情報学)	特任助教
4.1	採用	山下 琴美			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (精神保健看護開発学)	特任助教
4.1	採用	中津 美津子			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (成人看護開発学)	特任教授
4.1	採用	小澤 修一			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (放射線腫瘍学)	特任准教授
4.1	採用	片山 恵子			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (疫学・疾病制御学)	特任准教授
4.1	採用	土井 敏子			大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 (放射線腫瘍学)	特任助教
4.1	採用	杉山 文			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (疫学・疾病制御学)	特任助教
4.1	採用	松浦 初美			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (基礎看護開発学)	特任助教
4.1	採用	佐々木 由紀			大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 (健康開発科学)	特任助教
4.1	併任開始	栗原 英見	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院	主席副病院長
4.1	併任開始	栗原 英見	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 歯系総合診療科	主任診療科長
4.1	併任開始	栗原 英見	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 口腔維持修復歯科	主任診療科長
4.1	併任開始	木内 良明	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院	副病院長
4.1	併任開始	香西 克之	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院	副病院長
4.1	併任開始	香西 克之	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 口腔健康発育歯科	主任診療科長
4.1	併任開始	栗栖 薫	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院	副病院長
4.1	併任開始	工藤 美樹	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院	副病院長
4.1	併任開始	工藤 美樹	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 泌尿・生殖器診療科	主任診療科長
4.1	併任開始	小林 正夫	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院	副病院長
4.1	併任開始	小林 正夫	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 周産母子センター	センター長
4.1	併任開始	小林 正夫	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 成育診療科	主任診療科長
4.1	併任開始	小林 正夫	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 造血器診療科	主任診療科長
4.1	併任開始	山脇 成人	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 脳・神経・精神診療科	主任診療科長
4.1	併任開始	河野 修興	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 呼吸器診療科	主任診療科長
4.1	併任開始	河野 修興	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 内分泌代謝診療科	主任診療科長
4.1	併任開始	末田 泰二郎	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 循環器診療科	主任診療科長
4.1	併任開始	茶山 一彰	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 消化器診療科	主任診療科長
4.1	併任開始	河本 昌志	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 皮膚・運動器診療科	主任診療科長
4.1	併任開始	永田 靖	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 放射線部	部長
4.1	併任開始	永田 靖	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 放射線診療科	主任診療科長
4.1	併任開始	岡本 哲治	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 口腔再建外科	主任診療科長
4.1	併任開始	谷本 啓二	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 特殊歯科総合治療部	部長
4.1	併任開始	津賀 一弘	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 地域連携歯科医療部	部長
4.1	併任開始	秀 道広	大学院医歯薬保健学研究院	教授	ナノデバイス・バイオ融合科学研究所	副研究所長
4.1	配置換	中島 歩	病院未来医療センター	特任助教	原爆放射線医学研究所	特任助教
4.1	採用	仲 一仁			原爆放射線医学研究所 放射線災害医療研究センター (幹細胞機能学)	准教授

人事異動

発令 月日	異動 内容	氏 名	異動前所属	異動前 職 名	異動後所属・部門等	異動後 職 名
4.1	採用	津谷 康大			原爆放射線医学研究所 放射線災害医療研究センター	助教
4.1	採用	倉持 真人			原爆放射線医学研究所	特任助教
4.1	併任開始	稲葉 俊哉			原爆放射線医学研究所	研究所長
4.1	併任開始	岡田 守人			総合医療研究推進センター	センター長
4.1	併任開始	神谷 研二			緊急被ばく医療推進センター	センター長
4.1	併任開始	松浦 伸也			原爆放射線医学研究所	副研究所長
4.1	配置換	松尾 裕彰	大学院医歯薬保健学研究院	教授	病院 薬剤部	教授
4.1	配置換	上田 勉	大学院医歯薬保健学研究院	助教	病院 感覚器・頭頸部診療科（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）	助教
4.1	配置換	神人 蘭	保健管理センター	助教	病院 脳・神経・精神診療科（精神科）	助教
4.1	配置換	中村 隆治	大学院医歯薬保健学研究院	助教	病院 皮膚・運動器診療科（麻酔科）	助教
4.1	配置換	本田 有紀子	病院放射線部	助教	病院 放射線診断科（放射線診断科）	助教
4.1	配置換	横矢 晋	大学院医歯薬保健学研究院	助教	病院 皮膚・運動器診療科（整形外科）	助教
4.1	配置換	小島 俊逸	大学院医歯薬保健学研究院	助教	病院 口腔健康発育歯科（矯正歯科）	助教
4.1	昇任	田中 信弘	病院	助教	病院 脳・神経・精神診療科（整形外科）	講師
4.1	昇任	日浅 恭	病院	助教	病院 口腔維持修復歯科（口腔インプラント診療科）	講師
4.1	採用	飯田 慎			病院 放射線部	講師
4.1	採用	亀井 直輔			病院 未来医療センター	講師
4.1	採用	石井 康隆			病院 消化器診療科（消化器・代謝内科）	助教
4.1	採用	泉 聡太郎			病院 皮膚・運動器診療科（整形外科）	助教
4.1	採用	岩本 和真			病院 皮膚・運動器診療科（皮膚科）	助教
4.1	採用	上田 祐華			病院 成育診療科（小児外科）	助教
4.1	採用	上野 敏憲			病院 泌尿・生殖器診療科（腎臓内科）	助教
4.1	採用	恵木 浩之			病院 消化器診療科（消化器外科）	助教
4.1	採用	齋藤 明登			病院 放射線診療科（放射線治療科）	助教
4.1	採用	繁本 憲文			病院 医系総合診療科（感染症科）	助教
4.1	採用	未成 和義			病院 循環器診療科（循環器内科）	助教
4.1	採用	高萩 俊輔			病院 皮膚・運動器診療科（皮膚科）	助教
4.1	採用	田口 隆浩			病院 循環器診療科（心臓血管外科）	助教
4.1	採用	長沖 祐子			病院 消化器診療科（消化器・代謝内科）	助教
4.1	採用	中川 直哉			病院 消化器診療科（消化器外科）	助教
4.1	採用	宮本 真太郎			病院 呼吸器診療科（呼吸器内科）	助教
4.1	採用	山本 弥寿子			病院 泌尿・生殖器診療科（産科婦人科）	助教
4.1	採用	柄 博紀			病院 口腔維持修復歯科（咬合・義歯診療科）	助教
4.1	採用	西淵 いくの			病院 放射線部	助教
4.1	採用	鳥越 勇佑			病院 高度救命救急センター	助教
4.1	採用	佐野村 洋次			病院 内視鏡診療科	助教
4.1	採用	卜部 祐司			病院 未来医療センター	助教
4.1	併任開始	杉山 一彦			病院 化学療法診療科	主任診療科長
4.1	併任開始	田妻 進			病院 臨床実習教育研修センター	センター長
4.1	併任開始	田妻 進			病院 医系総合診療科	主任診療科長
4.1	併任開始	正木 崇生			病院 透析内科	科長
4.1	併任開始	日野 孝宗			歯科診療所	所長
4.1	併任開始	横崎 典哉			病院 検査部	部長
4.1	併任開始	仁井内 浩			病院 手術部	部長
4.1	併任開始	藤井 輝久			病院 輸血部	部長
4.1	併任開始	松尾 裕彰			病院 薬剤部	部長
4.1	併任開始	有廣 光司			病院 病理診断科	科長
4.1	併任開始	木村 浩彰			病院 リハビリテーション科	科長
4.1	併任開始	田中 信治			病院 内視鏡診療科	科長

大学院修了者一覧

博士課程

平成26年11月27日修了

研究科名	専攻名	氏名	論文題目名
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	いしがき たかし 石垣 尚志	A comparative study of 4 Fr versus 6 Fr nasobiliary drainage catheters: a randomized, controlled trial (4Frと6Frの内視鏡的経鼻胆道ドレナージカテーテルに関する無作為化比較試験)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	いしとび ともかず 石飛 朋和	The relationship between NAFLD and the risk factors of cardiovascular disease (NAFLDと心血管疾患危険因子の関連性について) 1) Efficacy of probucol for the treatment of non-alcoholic steatohepatitis with dyslipidemia: An open-label pilot study. (NASHにおけるプロブコールの有効性について) 2) Eicosapentaenoic acid/arachidonic acid ratio as a possible link between non-alcoholic fatty liver disease and cardiovascular disease. (エイコサペンタエン酸/アラキドン酸比からみたNAFLDと心血管疾患の関連)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	だん たつく あん ぼう Dang Thuc Anh Vu	Fasting enhances TRAIL-mediated liver natural killer cell activity via HSP70 upregulation (絶食刺激によりHSP70発現が増強することで、TRAILを介したNK細胞の活性化が生じる)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	なかがわ みさ 中川 三沙	Effect of increasing respiratory rate on airway resistance and reactance in COPD patients (呼吸回数増加がCOPD患者の気道レジスタンスおよびリアクタンスに及ぼす影響)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	ひらしお しゅうま 平塩 秀磨	Telomeric G-tail length and hospitalization for cardiovascular events in hemodialysis patients (血液透析患者におけるテロメア Gテール長と心血管事故による入院イベントとの関係)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	ふじくに のぶあき 藤園 宣明	Hypoxia-mediated CD24 expression is correlated with gastric cancer aggressiveness by promoting cell migration and invasion. (低酸素によって促進されるCD24の発現は胃癌細胞の運動・浸潤能亢進因子である)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	みくりや よしひろ 御厨 美洋	Fatty liver creates a pro-metastatic microenvironment for hepatocellular carcinoma through activation of hepatic stellate cells (脂肪肝は肝星細胞の活性化を通じ、肝細胞癌の肝内転移を促進する環境を構築する)

博士課程後期

平成26年12月25日修了

研究科名	専攻名	氏名	論文題目名
保健学研究科	保健学専攻	ながた まゆみ 永田 真弓	がん化学療法中の学童のための食生活セルフマネジメント個別支援プログラム

博士課程

平成27年1月22日修了

研究科名	専攻名	氏名	論文題目名
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	おくだ ひろし 奥田 浩	The USP21 short variant (USP21SV) lacking NES, located mostly in the nucleus in vivo, activates transcription by deubiquitylating ubH2A in vitro (USP21の短い変異体はNESが欠失しており、in vivo では核内に多く存在し、in vitro でubH2Aを脱ユビキチン化することによって転写を活性化する)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	おにたけ としこ 鬼武 敏子	Pulverized konjac glucomannan ameliorates oxazolone-induced colitis in mice. (粉碎コンニャクグルコマンナンはマウスオキサゾロン大腸炎を改善する)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	たかやす たけし 高安 武志	p16 gene transfer induces centrosome amplification and abnormal nucleation associated with survivin down-regulation in glioma cells (グリオーマ細胞へのp16遺伝子導入はsurvivinの発現低下を伴った中心体増幅と核形態異常をもたらす)

博士課程後期

平成27年1月22日修了

研究科名	専攻名	氏名	論文題目名
保健学研究科	保健学専攻	かみざと いわお 神里 巖	Surgical reconstruction with the remnant ligament improves joint position sense as well as functional ankle instability: a 1-year follow-up study (遺残靭帯を用いた靭帯再建術は機能的足関節不安定性と関節位置覚を改善させる：1年間の追跡研究)
保健学研究科	保健学専攻	ふくおか やすこ 福岡 泰子	脳梗塞の再発予防を目的とした疾病管理プログラムの開発及びその有効性に関する研究

大学院修了者一覧

博士課程

平成27年2月26日修了

研究科名	専攻名	氏名	論文題目名
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	内村 祐子 うちむら ゆうこ	Time-domain T-wave alternans is strongly associated with a history of ventricular fibrillation in patients with Brugada syndrome. (ブルガダ症候群の心室細動リスクの層別化におけるタイムドメイン法を用いたT波交互現象の有用性)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	坂根 潤一 さかね じゅんいち	Aberrant DNA methylation of <i>DLX4</i> and <i>SIMI</i> is a predictive marker for disease progression of uterine cervical Low-grade Squamous Intraepithelial Lesion. (DLX4及びSIMIのDNAメチル化異常は子宮頸部重層扁平上皮内異型度病変の疾患進行予測マーカーである)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	坪井 敦子 つばい あつこ	Association between the postprandial glucose Levels and arterial stiffness measured according to the cardio-ankle vascular index in non-diabetic subjects. (非糖尿病患者における食後血糖値とCAVIを用いて測定した動脈ステイフネスとの関連)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	南 智之 みなみ ともゆき	Antibiotic prophylaxis for endoscopic retrograde cholangiopancreatography increases the detection rate of drug-resistant bacteria in bile. (内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査における予防的抗菌薬投与は胆汁中薬剤耐性菌の検出率を増加させる)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	山田 敬子 やまだ きょうこ	Expression of age-related factors during the development of renal damage in patients with IgA nephropathy (IgA腎症患者の腎生検組織における老化関連因子の発現に関する検討)

修士課程

平成27年3月23日修了

研究科名	専攻名	氏名	論文題目名
医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	浅野 昌也 あさの まさや	シグマ受容体およびシグマ受容体リガンドのセロトニントランスポーター機能に対する影響
医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	河原 大輔 かわはら だいすけ	Availability of Diaphragm Matching in stereotactic body radiation therapy for Liver Tumor with Breath-Hold Technique
医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	鈴木 龍彦 すずき たつひこ	高エネルギー光子線による電離箱線量計の校正
医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	立本 淑子 たつもと よしこ	食道扁平上皮癌における細胞表面蛋白質BST2の発現・機能解析
医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	日野 健太 ひの けんた	Sox9-Regulated Transcriptional Activation of the ER Stress Transducer BBF2H7/CREB3L2 in Chondrocytes
医歯薬保健学研究科	医歯科学専攻	森本 千恵 もりもと ちえ	生後発達期小脳におけるミクログリアの分布および形態変化について

博士課程前期

平成27年3月23日修了

研究科名	専攻名	氏名	論文題目名
医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	木村 由布子 きむら ゆうこ	口腔癌治療後の生活の質に関する研究
医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	久米 美穂 くめ みほ	開業歯科医院における地震に対する防災意識の違いと影響する要因
医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	佐藤 真奈美 さとう まなみ	障害児(者)の歯科診療時におけるストレスに関する研究 — 唾液 α -アミラーゼ活性値による評価 —
医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	高木 謙太郎 たかぎ けんたろう	チタンイオンおよび <i>Porphyromonas gingivalis</i> 由来のLPSは骨芽細胞におけるWnt5aを介し破骨細胞の分化を促進する
医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	永田 明日美 ながた あすみ	温泉成分が医用シリコンに与える影響
医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	中ノ堂 まゆみ なかの どう	光学式三次元形状計測に適したインレーワックスの開発
医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	東 麻夢可 ひがし まゆか	飲料摂取による口腔内pHの経時的変化の検討
医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	藤本 典子 ふじもと のりこ	外的因子による顎顔面補綴材料への影響
医歯薬学総合研究科	薬科学専攻	植田 俊樹 うえだ としき	膀胱癌細胞由来エクソソームのプロテオーム解析
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	太田 涼介 おおた りょうすけ	ツボクサ (<i>Centella asiatica</i>) 葉部の生物活性成分の探索及び、沖縄県産植物ギイマ (<i>Vaccinium wrightii</i> A. Gray.) 材部の成分研究
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	落葉 尚子 おちば しょうこ	ハドノキ葉部からの抗Leishmania活性成分の探索
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	香川 晴信 かがわ はるのぶ	人工多能性幹細胞における X 線に対する高感受性細胞死の誘導機構の解明

大学院修了者一覧

研究科名	専攻名	氏名	論文題目名
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	かたぎり ゆうき 片桐 祐希	腎近位尿管上皮細胞における物質輸送に対するアルブミン負荷の影響
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	きはら しょうご 木原 章吾	放線菌チロシナーゼにおける反応機構の構造化学的研究
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	くらもと たつや 藏元 達谷	miR-22 が誘導する細胞老化における H3.3 の重要性
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	ささき よしひろ 佐々木 佳寛	肺胞上皮II型細胞とI型細胞におけるTransporterの発現・機能と喫煙関連物質の影響
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	しげとう たかひろ 重藤 貴大	ラット大脳皮質初代培養ミクログリアにおける三環系抗うつ薬 amitriptyline による脳由来神経栄養因子 (BDNF) 発現機構の解明
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	しどおか ともき 志戸岡 友希	miR-27b の発現上昇に伴う標的遺伝子 PRPF19 の発現低下はヒト線維芽細胞の細胞老化に関与する
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	すえみつ しょうへい 末満 翔平	DNA 精製しないテロメア G-テール・テロメア長の測定法 Direct G-tail telomere HPA 法の開発
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	すぎやま ちひろ 杉山 千尋	GluR2発現減少を指標としたin vitro神経毒性評価系の構築
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	たなべ たかあき 田邊 敬明	ヒト腎由来HK-2細胞におけるGタンパク質共役型受容体を介したMRP2機能変動に関する研究
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	ながしま かすみ 長島 佳純	天然物由来生物活性物質の探索とその標的分子解析
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	なかむら なおき 中村 直樹	環境化学物質の甲状腺ホルモン攪乱作用による生体影響評価に関する研究
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	ひらばやし ゆう 平林 悠	生体膜輸送研究のための新規反応停止液の開発
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	やまぐち こうき 山口 晃輝	培養肺胞上皮細胞を用いた薬剤誘発性上皮間葉転換の解析
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	あんどりー ぶす Andrew Pus	FACTORS OF OBESITY IN PAPUA NEW GUINEA Why most people in Papua New Guinea are becoming obesity?
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	いしじま ゆりの 石島 ゆりの	足部内側縦アーチ機能と歩行動作の関連性 - 衝撃吸収能に着目して -
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	いしなが こうじろう 石長 孝二郎	健常者における嗅覚同定能力とニオイ物質に対する気分の快・不快の変化の検討
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	いちちよう きゆうり 一町 小百合	生演奏と録音再生が心拍変動と血圧および心理側面に及ぼす影響の比較
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	いでまこ みつひろ 井手迫 光弘	Centrally-induced modulation of the baroreflex control of heart rate and sympathetic nerve activity at the onset of exercise (運動開始時における心拍数および交感神経活動の動脈血圧反射性制御の中樞性調節)
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	いわもと よしたか 岩本 義隆	高齢者の立位姿勢制御と足関節周囲筋同時収縮の関連性
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	うえの ようこ 上野 陽子	思春期における性教育への関心とその関連要因および性教育へのニーズについての検討
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	おおくら ゆうのすけ 大倉 優之介	頭蓋骨由来ヒト骨髄間葉系幹細胞の培養上清および移植効果の検討
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	おきもと まさあき 沖本 優明	高齢者における身体活動と身体機能の関連についての検討
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	きむら ゆうと 木村 悠人	腰部脊柱管狭窄症患者の着座動作戦略
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	くにしげ まさかみ 國重 雅史	健常高齢者の上肢二点間到達運動時における運動プランニングの特徴～運動特性・脳波の観点から～
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	こうの よしみ 河野 愛史	膝前十字靭帯損傷患者における歩行およびランニング動作時の膝関節運動と臨床所見との関連
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	こうとう みつこ 後藤 満津子	地域で生活する統合失調症者の社会との関係に関する研究 - QOL・自己効力感との関連 -
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	しげおか ひでこ 重岡 秀子	成人看護学実習前・後における学生が感じるストレス感情と不安状態および実習指導者・教員への評価の実態調査
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	しげひろ みか 重広 美佳	BRCAL/2変異保有者におけるリスク低減卵巣卵管切除術に関わる心理・社会的側面に関する研究
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	たがわ きみこ 田川 紀美子	子どもの誕生前・直後の父親の変化と生きがい感に関連する要因の検討
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	だて しょうた 伊達 翔太	手のメンタルローテーション課題を用いた運動イメージの臨床応用への検討
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	ちん けいほう 陳 卉芳	入院患者への経口摂食援助に関する中国および日本の看護学生と看護師の認識と行動の現状

大学院修了者一覧

研究科名	専攻名	氏名	論文題目名
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	寺井 千晶	片側膝前十字靭帯損傷・再建が歩行時の非損傷側膝関節運動に与える影響
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	中山 奨	セルフマネジメント行動の獲得を主眼としたCKD (Chronic Kidney Disease) 疾病管理プログラムの効果の検討
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	沼田 郁子	高齢長距離ランニング継続者の健康状態と健康管理行動との関連性
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	橋本 美千代	女性乳癌患者におけるがん治療に関連した認知機能障害とQOLの関連因子
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	檜垣 由希奈	養護老人ホーム入所者における「なじみの物」について一対象者となじみの物とのつながりに着目して一
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	藤原 直子	地域在住の虚弱高齢者における生きがいと役割との関連
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	古川 拓馬	重力環境変化が骨格筋細胞分化に与える影響およびその分子機構
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	前田 梨絵	離島医療に対する遠隔疾病管理の効果の検討
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	松本 あつき	回復期の脳卒中患者に関わる看護師への脳卒中後うつに関する教育の効果
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	松本 裕子	新生児マス・スクリーニングで代謝異常症を指摘された児をもつ母親の感情
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	八橋 孝介	幼児の社会的スキルと問題行動の関連要因としての母親の養育態度およびマインドフルネス
保健学研究科	保健学専攻	山下 あ理子	特定保健指導を受講した人の特徴を過疎地域で活用する可能性と方法の検討
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	山下 琴美	児童が健康を自分で管理する意義とその支援方法に関する研究
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	山本 圭彦	膝関節を中間位におくことを意識させたエクササイズによる片脚着地時の膝関節運動と筋活動の変化
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	李 芮瑩	一人暮らし高齢者の孤立死予防に向けた見守り活動 ー 過疎農村地域における見守り活動内容と課題に関する質的研究 ー
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	渡辺 友志	感覚機能に対するニューロリハビリテーションの可能性 ー 脳磁図を用いた体性感覚野の解析 ー

博士課程

平成27年3月23日修了

研究科名	専攻名	氏名	論文題目名
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	青山 大輝	Clinical usefulness of capsule endoscopy for gastrointestinal lesions related to portal hypertension. (門脈圧亢進症関連消化管病変に対するカプセル内視鏡の臨床的有用性) 1. Major predictors of portal hypertensive enteropathy in patients with liver cirrhosis. (肝硬変患者における門脈圧亢進症性小腸症の予測因子) 2. Is small-bowel capsule endoscopy effective for diagnosis of esophagogastric lesions related to portal hypertension? (小腸カプセル内視鏡を用いた門脈圧亢進症関連食道胃病変診断の有用性)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	Ajiravudh Subarnbhesaj	Roles of VEGF-Flt-1 signaling in malignant behaviors of oral cancer (口腔癌の悪性形質におけるVEGF-Flt-1シグナル伝達系の役割)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	栗田 哲也	アミノ酸ペプチドの骨代謝関連細胞に対する影響とペプチド固定化の有効性の検討
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	安藤 俊範	Ameloblastin induces tumor suppressive phenotype and enhances chemosensitivity to doxorubicin via Src-Stat3 inactivation in osteosarcoma (AmeloblastinはSrc-Stat3の不活性化を介して骨肉腫の増殖進展を抑制しドキシソルピシンに対する感受性を亢進する)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	石井 裕明	ペントバルビタールの全身麻酔作用における側坐核および線条体ドパミン神経の役割
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	石田 陽子	<i>Candida albicans</i> によって口腔粘膜上皮細胞から誘導される Heme oxygenase-1 の発現と機能
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	石田 充	骨髄間葉系幹細胞の継代過程における細胞機能制御メカニズムの解析
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	泉 聡太郎	The endoplasmic reticulum stress transducer BBF2H7 suppresses apoptosis by activating the ATF5-MCL1 pathway in growth plate cartilage. (小胞体ストレスセンサー BBF2H7は成長軟骨においてATF5-MCL1経路を活性化させアポトーシスを抑制する)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	岩崎 年高	Validation of automated quantification of myocardial perfusion single-photon emission computed tomography using Heart Score View in patients with known or suspected coronary artery disease. (心筋血流定量解析ソフト Heart Score View と Quantitative Perfusion SPECT のスコアリング精度の比較検討)

大学院修了者一覧

研究科名	専攻名	氏名	論文題目名
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	うじごう さとし 宇治郷 論	Administration of microRNA-210 promotes spinal cord regeneration in mice. (マイクロRNA-210投与によるマウス脊髄損傷モデルにおける脊髄再生)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	おおうえ かな 大植 香菜	生体のエネルギー代謝を制御するPRIP分子の機能解析研究
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	おおた こうへい 太田 浩平	Influence of clinical experience of the Macintosh laryngoscope on performance with the Pentax-AWS Airway Scope®, a rigid video-laryngoscope, by paramedics in Japan (救急救命士におけるマッキントッシュ型喉頭鏡の臨床経験がビデオ喉頭鏡を用いた気管挿管技能に及ぼす影響)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	おおの あつし 大野 敦司	Long-term continuous entecavir therapy in nucleos(t)ide-naive chronic hepatitis B patients. (核酸アナログ製剤の治療歴のないB型慢性肝炎患者に対するエンテカビル長期治療成績)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	おきみ ななみ 沖 奈苗	骨髄由来間葉系幹細胞 (MSCs) を用いた顎裂閉鎖治療法 - MSCsの血管新生に果たす役割の検討 -
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	おくはら ゆかこ 奥原 裕佳子	Direct effect of radiation on the peripheral nerve in a rat model. (放射線照射による末梢神経への直接的な影響)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	かしかわ まさと 梶川 正人	Rho-Associated Kinase Activity Is a Predictor of Cardiovascular Outcomes. (新規心血管イベント発症予測因子としてのRho-associated kinase (ROCK) 活性)
医歯薬学保健学研究科	医歯薬学専攻	かじうめ あいこ 梶梅 あい子	Reduced brain activation during imitation and observation of others in children with pervasive developmental disorder: a pilot study. (広汎性発達障害児における動作の観察・模倣時の脳血流変化の抑制)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	かしわい けい 柏井 桂	歯肉上皮細胞と歯周靭帯細胞の増殖に及ぼす脳由来神経栄養因子の相反作用
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	かとう ともひろ 加藤 智弘	Exosomes from IL-1 β stimulated synovial fibroblasts induce osteoarthritic changes in articular chondrocytes. (IL-1 β 刺激滑膜細胞由来のエクソソームは軟骨細胞に関節症性変化を引き起こす)
医歯薬学保健学研究科	医歯薬学専攻	ささき はやと 佐々木 勇人	Concurrent analysis of human equilibrative nucleoside transporter 1 and ribonucleotide reductase subunit 1 expression increases predictive value for prognosis in cholangiocarcinoma patients treated with adjuvant gemcitabine-based chemotherapy. (胆道癌患者に対するGemcitabineを用いた術後補助化学療法においてhuman equilibrative nucleoside transporter 1およびribonucleotide reductase regulatory subunit M1発現の同時解析は予後の予測値を高める)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	しかた はなか 四方 花佳	新規プログラムフリーザーを用いた間葉系幹細胞の凍結保存法の開発
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	しばさき ももこ 柴崎 桃子	Matrix metalloproteinase and cytokine expression in Tenon fibroblasts during scar formation after glaucoma filtration or implant surgery in rats. (ラットを用いた緑内障濾過、及びインプラント手術後の瘢痕形成におけるテノン線維芽細胞内のMMP、サイトカイン発現)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	じょ えんへん 徐 衍賓	RAD18 activates the G2/M checkpoint through DNA damage signaling to maintain genome integrity after ionizing radiation exposure (RAD18は、放射線照射後誘導されるDNA損傷シグナルを維持させることで、G2/Mチェックポイントの活性化に関与し、ゲノムの恒常性を維持する。)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	しんめい しゅんすけ 神明 俊輔	Identification of PRL1 as a novel diagnostic and therapeutic target for castration-resistant prostate cancer by the <i>Escherichia coli</i> ampicillin secretion trap (CAST) method. (CAST法により見いだされた去勢抵抗性前立腺癌の新規診断および治療標的としてのPRL1の同定)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	すえまつ みれい 末松 美玲	扁平上皮癌細胞でのオートファジーによるインテグリン αv のプロセッシング
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	たつかわ のぶき 達川 伸行	黄色ブドウ球菌の表層タンパク質Skipの発現制御機構の解析
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	たにみね なおき 谷峰 直樹	Quantitative effect of natural killer-cell licensing on hepatocellular carcinoma recurrence after curative hepatectomy (ナチュラルキラー細胞Licensingの定量的効果が肝細胞癌治療切除後再発に与える影響)

大学院修了者一覧

研究科名	専攻名	氏 名	論文題目名
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	なえしろ のりあき 苗代 典昭	Treatment outcome of percutaneous transvenous embolization for gastric varices and encephalopathy due to portal systemic shunt which are complication of portal hypertension. (門脈圧亢進症の合併症である胃静脈瘤、門脈大循環シャントによる脳症に対する経皮経静脈的シャント塞栓術の治療成績) 1) Long-term outcome of patients with gastric varices treated by balloon-occluded retrograde transvenous obliteration. (胃静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術の長期成績) 2) Percutaneous transvenous embolization for portosystemic shunts associated with encephalopathy: Long-term outcomes in 14 patients. (門脈大循環シャントによる脳症に対する経皮経静脈的シャント塞栓術の長期成績)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	なかむら よしひろ 中邑 祥博	Monitoring of progression of nonsurgically treated rotator cuff tears by magnetic resonance imaging. (MRIにて評価した保存治療を行った腱板断裂の断裂サイズ・部位の変化)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	にしかわ ともかず 西川 智和	Phosphatidylinositol-4, 5-bisphosphate is enriched in granulovacuolar degeneration bodies and neurofibrillary tangles (ホスファチジルイノシトール4, 5-二リン酸は顆粒空胞変性や神経原線維変化内に豊富に存在する)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	おづ ともひさ 祢津 智久	Cerebral and peripheral vascular reactivity in cerebral small vessel disease (脳小血管病における脳血管および末梢血管反応性) 1. Preserved acetazolamide reactivity in lacunar patients with severe white-matter lesions: ¹⁵ O-labeled gas and H ₂ O positron emission tomography studies (重症白質病変を有するラクナ梗塞患者においてアセタゾラミド反応性は保たれている: ガスPETおよび水PET研究) 2. Endothelial dysfunction is associated with the severity of cerebral small vessel disease (血管内皮機能障害は脳小血管病の重症度と関連する)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	はまだ あつこ 濱田 充子	センダイウイルスを用いたインテグレーションフリー・フィーダーフリー・無血清培養系での歯髄細胞由来人工多能性幹細胞 (hiPSC) の樹立に関する研究
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	はやし なな 林 奈那	Predictors of incomplete resection and perforation associated with endoscopic submucosal dissection for colorectal tumors (大腸腫瘍に対するESDの不完全摘除、穿孔の予測因子に関する検討)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	ひらまつ たけし 平松 武	The dorsolateral prefrontal network is involved in pain perception in knee osteoarthritis patients (前頭前野背外側部の脳内ネットワークは、変形性膝関節症患者の疼痛認知に関与する)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	ふじい えり 藤井 絵理	実験的歯周炎を誘発した卵巣摘出ラットにおける矯正的歯の移動様相とその分子生物学的背景について
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	ぼうだ ともゆき 保田 智之	Advanced method for evaluation of gastric cancer risk by serum markers: determination of true low-risk subjects for gastric neoplasm (血清診断による胃癌リスク評価法: 真の胃腫瘍低危険群の同定)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	ほんだ ゆきこ 本田 有紀子	T-staging of urothelial carcinomas of the ureter by CT: A preliminary study of new diagnostic criteria proposed for differentiating between T2 or lower and T3 or higher (CTによる尿管癌のT因子診断: T2以下/ T3以上の選別を目的とした診断基準の提案に関する予備的研究)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	まきはら ゆうすけ 牧原 勇介	連通多孔性ハイドロキシアパタイトを用いた骨再建部におけるインプラントの骨支持に関する実験的研究
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	まつもと たけし 松本 武史	Effect of aldosterone-producing adenoma on endothelial function and Rho-associated kinase activity in patients with primary aldosteronism. (原発性アルドステロン症患者におけるアルドステロン産生腺腫の血管内皮機能およびROCK活性に与える影響について)
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	みふたふる あひやる らていふ Miftahul Akhyar Latief	Antimicrobial action from a novel porphyrin derivative in photodynamic antimicrobial chemotherapy in vitro. (光線力学的抗微生物化学療法における新規ポルフィリン誘導体のin vitroでの有用性)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	むほんまど あんどりーうすまん Muhammad Andry Usman	Revision single-bundle anterior cruciate ligament reconstruction with over-the-top route procedure. (Over the top routeを用いた前十字靭帯再建術)
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	もり たかひろ 森 隆浩	認知症高齢者の口腔機能を評価する嚥摂機能検査の実用化に関する研究
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	やまかわ まさひろ 山川 真宏	関節リウマチモデルマウスにおける <i>Porphyromonas gingivalis</i> 感染の関節リウマチ病態への影響

大学院修了者一覧

研究科名	専攻名	氏名	論文題目名
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	やまもと かずひろ 山本 一博	ZIP2はEMT誘導因子SnailとSlugによる口腔扁平上皮癌細胞のEMTを制御する
医歯薬学総合研究科	創生医科学専攻	よしもと てつや 吉本 哲也	The involvement of TGF- β /smad2 signaling pathway in <i>Aggregatibacter actinomycetemcomitans</i> -induced apoptosis on human gingival epithelial cells (TGF- β /smad2シグナル伝達経路と <i>Aggregatibacter actinomycetemcomitans</i> が誘導するヒト歯肉上皮細胞におけるアポトーシスとの関連性)
医歯薬保健学研究科	医歯薬学専攻	わたなべ ようこ 渡部 容子	紫外線吸収剤Benzophenone-3およびその誘導体の代謝と内分泌攪乱活性への影響
医歯薬学総合研究科	展開医科学専攻	わたなべ よしかず 渡邊 義和	Mechanical and substrate abnormalities of left atrium assessed by three-dimensional speckle-tracking echocardiography and electroanatomical mapping system in patients with paroxysmal atrial fibrillation (3次元ストレーンエコーと電気解剖学的マッピングシステムを用いた、発作性心房細動患者における左房壁運動・基質異常の評価)

博士課程後期

平成27年3月23日修了

研究科名	専攻名	氏名	論文題目名
医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	いまい ひでゆき 今井 秀行	有機硫黄化合物含有プライマーが間接修復用コンポジットレジンと金銀パラジウム合金との接着に及ぼす影響
医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	いわぐろ しょうご 岩畔 将吾	ジルコニアと歯科材料の複合化における新規微細維持の効果
医歯薬保健学研究科	口腔健康科学専攻	ふかだ えり 深田 恵里	臨床的口腔機能評価法への応用に向けた吸引・嚥下時の口腔内圧力変化の解析
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	あんどう まさふみ 安藤 雅史	累積二重結合化合物のエナンチオ選択的合成におけるシアノ基の活用
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	うだ なるとし 宇田 成利	D-サイクロセリン生合成に関与するO-ウレイド-L-セリンシンターゼとD-サイクロセリンシンターゼの構造生物学的研究
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	かじたに なおと 梶谷 直人	アストロサイトにおける抗うつ薬による塩基性線維芽細胞増殖因子産生機構に関する薬理学的研究
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	こんどう やすひろ 近藤 泰博	キラルリチウムアミドによる不斉還元を利用した新規合成反応の開発
医歯薬保健学研究科	薬科学専攻	みやうち るみ 宮内 瑠美	植物乳酸菌 <i>Lactobacillus brevis</i> 174Aにおけるバクテリオシンの発現制御機構
医歯薬保健学研究科	保健学専攻	さきだい じゅんぺい 笹代 純平	The effect of ankle taping to restrict plantar flexion on ball and foot velocity during an instep kick in soccer. (足関節底屈を制限するテーピングがサッカーインステップキックのボール速度と足部速度におよぼす影響)

平成26年度受託研究受入・民間等との共同研究実績状況・ 奨学寄附金受入状況・寄贈図書一覧

○平成26年度受託研究受入・民間等との共同研究実績状況

外部資金の名称	受入状況	
	件数	受入金額(千円)
受託研究	42件	89,157
共同研究	41件	104,242
計	83件	193,399

医歯薬保健学研究院、原爆放射線医科学研究所、病院の平成26年10月1日から平成27年3月31日までの受入状況を示す。(千円未満四捨五入)

○平成26年度奨学寄附金受入状況

受入状況	
件数	受入金額(千円)
1,291件	560,858

医歯薬保健学研究院、原爆放射線医科学研究所、病院の平成26年10月1日から平成27年3月31日までの受入状況を示す。
(千円未満四捨五入)

○寄贈図書一覧

寄贈者		書名	著者	出版社・発行年月
所属	氏名			
医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 医学分野 消化器・代謝内科学	茶山 一彰	ライヴ人類学講義 (叢書インテグラール)	高谷 紀夫	丸善(株)出版事業部 2008年2月
		“戦争と科学の諸相” (叢書インテグラール)	市川 浩	丸善(株) 2009年2月
		わたしの哲学-修行カ-	平松 恵一	ガリバープロダクツ 2014年6月
医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 歯学分野 生体材料学	錦織 良	太田 博 遺稿集	福島県立郡山商業高等学校同窓会	福島県立郡山商業高等学校同窓会 2010年1月
		感想文集 ひめゆり	尾鍋 拓美、 仲田 晃子	ひめゆり平和祈念資料館 2014年6月
		続 ひめゆり	財団法人沖縄県女師・ 一高女ひめゆり同窓会	沖縄県女師・一高女ひめゆり同窓会 2004年6月
		ひめゆり平和祈念資料館	財団法人沖縄県女師・ 一高女ひめゆり同窓会	ひめゆり平和祈念資料館 2002年6月
		未来へつなぐひめゆりの心	財団法人沖縄県女師・ 一高女ひめゆり同窓会	ひめゆり平和祈念資料館 2010年3月
医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 薬学分野 医療薬剤学	湯元 良子	まず薬局へおいでなさい	天野 宏 百瀬 弥寿徳	みみずく舎 2014年10月
大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 保健学分野 助産・母性看護開発学	福島 紗世	カラー写真で学ぶ妊産褥婦のケア	櫛引 美代子	医歯薬出版 2014年9月

編集後記 / 表紙写真説明

編集後記

今年も早や半年が過ぎ、紫陽花の美しい姿を愛でる季節となりました。

しかしながら、雨が降るたびに、昨年8月の「広島市大規模土砂災害」を思い出します。被災された方々、大切なご家族やご友人を失われた方々のご心はいかばかりかと察するに言葉ありません。これから梅雨本番を迎え、どうぞあのような災害が二度とおこりませんようにと願わずにはおれません。

中東情勢やMERSの猛威、口永良部島をはじめとする火山活動の活発化など日々ニュースに事欠きません。そのような脅威を感じるなか、広島大学は「スーパーグローバル大学」として世界ランキングトップ100入りを目指しており、当研究科構成員の皆様も、臨床・研究・教育の各部門でさらなる成果を生み出し、目標達成へ向けて日々邁進されておられることと存じます。

本刊では、当研究科の活躍が多数記録されており、今回も大変読み応えのある内容となっております。本広報誌*BHS NEWS*はますます内容を充実させ、各分野における最新の情報を発信すべく編集されています。

2015年も後半戦となります。構成員の皆様にとりまして、今後ますますのご活躍を心より祈念いたします。

2015年6月 広報委員 吉川 峰加

表紙写真説明

霞キャンパスを上空から撮影した写真です。



2015年(平成27年)6月発行

編集発行 広島大学大学院医歯薬保健学研究院・医歯薬保健学研究科広報委員会

住所 〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号

電話 (082)257-5807(総務グループ)

FAX (082)257-5615

E-mail kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

URL <http://www.hiroshima-u.ac.jp/bimes>

印刷 株式会社ニシキプリント

研究院長・研究科長 安井 弥

□広報委員会委員(○委員長)

- 坂口 剛正(医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 教授(医学分野))
- 酒井 規雄(医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 教授(医学分野))
- 松浪 勝義(医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 教授(薬学分野))
- 花岡 秀明(医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 教授(保健学分野))
- 松原 昭郎(医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 教授(医学分野))
- 竹本 俊伸(医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 教授(歯学分野))
- 大瀧 慈(原爆放射線医科学研究所 放射線影響評価研究部門 教授)
- 大上 直秀(医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門 准教授(医学分野))
- 岡本 泰昌(医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 准教授(医学分野))
- 吉川 峰加(医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 准教授(歯学分野))
- の場 康幸(医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 准教授(薬学分野))
- 高橋 真(医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 講師(保健学分野))
- 藤本紗央里(医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 講師(保健学分野))